

教材一覧

No.	教材	学習内容
序 概要		
1	000100.pdf	0-1 監修者挨拶
2	000200.pdf	0-2 支援技術について
3	000300.pdf	0-3 障害者就労支援の現場から
4	000301.pdf	0-3-1 委員（田代）
5	000302.pdf	0-3-2 委員（小野）
6	000303.pdf	0-3-3 委員（島田）
7	000304.pdf	0-3-4 委員（大島）
8	000305.pdf	0-3-5 委員（清田）
9	000306.pdf	0-3-6 委員（堀込）働くカタチはひとつじゃない
10	000307.pdf	0-3-7 委員（田中）作業療法とICT活用について
11	000308.pdf	0-3-8 委員（西澤）DX時代の障害者の就労支援
12	000309.pdf	0-3-9 委員（黒崎）テレワーカー育成事業
13	000400.pdf	0-4 ATアドバイザー育成研修について
14	000401.pdf	0-4-1 eラーニングの使い方
15	000402.pdf	0-4-2 コミュニティサイトの使い方
16	000403.pdf	0-4-3 理解度テストの使い方
17	000404.pdf	0-4-4 対面研修について
18	000405.pdf	0-4-5 実習について
19	000406.pdf	0-4-6 オンラインディスカッションについて
単元1 障害の理解		
20	010100.pdf	1-1 この単元について、著者の挨拶等
21	010200.pdf	1-2 障害観の変化
22	010300.pdf	1-3 社会の変化
23	010400.pdf	1-4 障害の種類
24	010500.pdf	1-5 法整備
25	010600.pdf	1-6 この単元のまとめ(振り返り、参考文献)
単元2 テクノロジーの理解		
26	020100.pdf	2-1 この単元について、著者の挨拶等
27	020200.pdf	2-2 テクノロジーと人間
28	020300.pdf	2-3 アクセシビリティ
29	020400.pdf	2-4 福祉機器と支援機器
30	020500.pdf	2-5 支援機器を利用する上での注意点
31	020600.pdf	2-6 機器の工夫・工作
32	020601.pdf	2-6-1 操作スイッチとマウスクリックの工作
33	020602.pdf	2-6-2 機器の工夫・工作の実際

No.	教材	学習内容
34	020700.pdf	2-7 この単元のまとめ(振り返り、参考文献)

No.	教材	学習内容
単元3 ICTに関する支援技術		
35	030100.pdf	3-1 この単元について、著者の挨拶等
36	030200_1_30p.pdf	3-2 一般的なICT機器の支援への利活用_1
37	030200_31_72p.pdf	3-2 一般的なICT機器の支援への利活用_2
38	030300.pdf	3-3 OS標準のアクセシビリティ機能
39	030301.pdf	3-3-1 WindowsOS
40	030302_1_37p.pdf	3-3-2 iOS_1
41	030302_38_74p.pdf	3-3-2 iOS_2
42	030303.pdf	3-3-3 android
43	030304.pdf	3-3-4 MacOS
44	030400.pdf	3-4 福祉機器として開発された情報支援技術
45	030500_1_20p.pdf	3-5 ICTを活用した実践例_1
46	030500_21_53p.pdf	3-5 ICTを活用した実践例_2
47	030501.pdf	3-5-1 学齢期の支援
48	030502_1_20p.pdf	3-5-2 遠隔テレビ会議システムを使用した支援_1
49	030502_21_44p.pdf	3-5-2 遠隔テレビ会議システムを使用した支援_2
50	030503.pdf	3-5-3 eスポーツでの支援
51	030600.pdf	3-6 Webアクセシビリティについて
52	030601.pdf	3-6-1 Webアクセシビリティ1
53	030602.pdf	3-6-2 Webアクセシビリティ2
54	030700.pdf	3-7 この単元のまとめ(振り返り、参考文献)
単元4 困難別の支援技術		
55	040100.pdf	4-1 この単元について、著者の挨拶等
56	040200.pdf	4-2 見ること
57	040201.pdf	4-2-1 見ることの困難
58	040202.pdf	4-2-2 見ることの困難に対する支援技術
59	040203.pdf	4-2-3 見ることの困難に対する支援技術2
60	040204.pdf	4-2-4 見ることの困難に対する支援技術3
61	040300.pdf	4-3 聞くこと
62	040301.pdf	4-3-1 聞くことの困難
63	040302.pdf	4-3-2 聞くことの困難に対する支援技術
64	040400.pdf	4-4 コミュニケーション
65	040401.pdf	4-4-1 コミュニケーションの困難
66	040402.pdf	4-4-2 コミュニケーションの困難に対する支援技術
67	040500.pdf	4-5 動くこと (肢体不自由)
68	040501.pdf	4-5-1 肢体不自由による困難
69	040502.pdf	4-5-2 肢体不自由による困難に対する支援技術
70	040600.pdf	4-6 病弱

No.	教材	学習内容
71	040601.pdf	4-6-1 病弱による困難さ
72	040602.pdf	4-6-2 病弱による困難さに対する支援技術
73	040700.pdf	4-7 読み書き
74	040701.pdf	4-7-1 読み書きの困難
75	040702.pdf	4-7-2 読み書きの困難に対する支援技術
76	040800.pdf	4-8 重複障害
77	040801.pdf	4-8-1 重複障害の困難
78	040802.pdf	4-8-2 重複障害のある人に対する支援技術
79	040900.pdf	4-9 この単元のまとめ(振り返り、参考文献)
単元5 場面別の支援技術		
80	050100.pdf	5-1 この単元について、著者の挨拶等
81	050200.pdf	5-2 学習場面での支援技術
82	050201.pdf	5-2-1 学習場面での支援技術 ケーススタディ1
83	050202.pdf	5-2-2 学習場面での支援技術 ケーススタディ2
84	050203.pdf	5-2-3 学習場面での支援技術 ケーススタディ3
85	050204.pdf	5-2-4 学習場面での支援技術 ケーススタディ4
86	050205.pdf	5-2-5 学習場面での支援技術 ケーススタディ5
87	050300.pdf	5-3 就労場面での支援技術
88	050301.pdf	5-3-1 就労場面での支援技術 ケーススタディ1
89	050302.pdf	5-3-2 就労場面での支援技術 ケーススタディ2
90	050303.pdf	5-3-3 就労場面での支援技術 ケーススタディ3
91	050304.pdf	5-3-4 就労場面での支援技術 ケーススタディ4
92	050305.pdf	5-3-5 就労場面での支援技術 ケーススタディ5
93	050306.pdf	5-3-6 就労場面での支援技術 ケーススタディ6
94	050400.pdf	5-4 日常生活場面での支援技術
95	050401.pdf	5-4-1 日常生活場面での支援技術 ケーススタディ1
96	050402.pdf	5-4-2 日常生活場面での支援技術 ケーススタディ2
97	050403.pdf	5-4-3 日常生活場面での支援技術 ケーススタディ3
98	050404.pdf	5-4-4 日常生活場面での支援技術 ケーススタディ4
99	050405.pdf	5-4-5 日常生活場面での支援技術 ケーススタディ5
100	050500.pdf	5-5 この単元のまとめ(振り返り、参考文献)
対面研修		
101	060100.pdf	6-1 対面研修について
実習		
102	070100.pdf	実習について
103	070200.pdf	インタビューについて
104	070300.pdf	インタビューの実際について (東京都障害者IT地域支援センター訪問)
合計		

序 第1章



監修者挨拶

委員長 金森 克浩

(日本教育情報学会 特別支援教育AT研究会 会長)

この講義は、ATA研修 序 第1章「監修者挨拶」です。

担当は、日本教育情報学会 特別支援教育AT研究会 会長 金森克浩 委員長です。



※講師映像のみ。スライドなし。

2

皆さんこんにちは、日本福祉大学の金森克浩です。本講座を受講して頂きありがとうございます。

このアシスティブテクノロジー・アドバイザー(ATA)育成講座は、厚生労働省の助成を得て、有限会社ケー・アンド・エフコンピュータサービスが主体となって行っています。

私は日本支援技術協会として、また日本教育情報学会AT研究会として関わっています。



※講師映像のみ。スライドなし。

3

この講座は、障害のある人の自立と社会参加を進めるために必要となるICTを中心とした支援技術の普及を目指しています。

ところで、皆さんには障害はありますか。このような質問に、どのように答えますか。「ある」と答える人もいれば「無い」と答える人もいるでしょう。

「無い」と答えた人は、あなたには本当に「障害」はないのでしょうか。そのヒントが講座の中に込められています。

支援技術は「機器の話」と思われてしまうことがありますが、私はそのように思いません。「機器の話」をする事を通じ、全ての人の「人権の尊重」を考えることだと思えます。ぜひ、本講座を通じて考えて頂ければと思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

4

この講座は以下の5つの分野で構成されています。

1. 障害の理解
 2. 技術の理解
 3. ICT支援技術
 4. 困難別の支援技術
 5. 場面別の支援技術
- です。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

この5つの知識分野をそれぞれ独立させるのではなく相互に融合しながら、最新のICT技術を活用した、障害ある人の自立と社会参加を支援する専門的な人材の養成をします。

また、eラーニングなどの遠隔講義だけでなく、実際に集まって研修会を行う、または支援機器を見ることによって、その知識と活用する力を付けるためのプログラムを組んでいます。本年度は第1回目、まだ始まったばかりです。皆さんの積極的な参加や意見を基に、障害のある人を支援する技術がより多くの人に広まっていくことを目指して、内容をより良いものにしていきたいと考えています。

これで私の話は終わります。

序 第2章



ATアドバイザーの意義と役割 支援技術について

事務局

この講義は、ATA研修 序 第2章「ATアドバイザーの意義と役割 支援技術について」です。

目次



1. はじめに
2. 外部環境の理解
求められる技術 知識 手法
カリキュラムの構成
3. まとめ

目次

1. はじめに

この章のねらい



- 本研修の概要を理解する
- 学習目標
 - ▶ 取り巻く環境を理解する
 - ▶ 求められている人材について学ぶ

- 学習のゴール
 - ▶ 本研修の内容を理解した上で自身のゴールを設定できるようになる

3

この章のねらいは、
本研修の概要を理解すること、
です。

学習目標は、
取り巻く環境を理解すること、
求められている人材について学ぶこと、
です。

学習のゴールは、
本研修の内容を理解した上で自身のゴールを設定できるようになること、
です。

1. はじめに



■ この章を学習するにあたってのポイント

ICT技術を活用して障害者の自立・就労を支援する役割を担うコーディネーターの役割を理解する

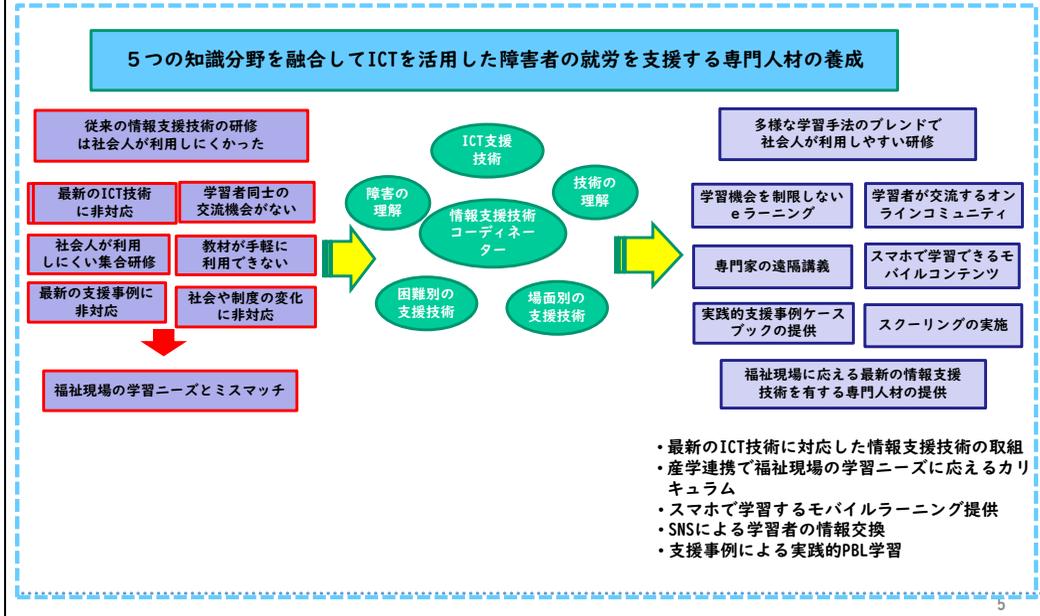
4

この章を学習するにあたってのポイントは、
ICT技術を活用して障害者の自立・就労を支援するというコーディネーターの役割を理解すること、
です。



1. はじめに

福祉の環境を取り巻く課題の全体像



最初に、福祉の環境を取り巻く課題の全体像を押さえます。

図にするとこのようになります。

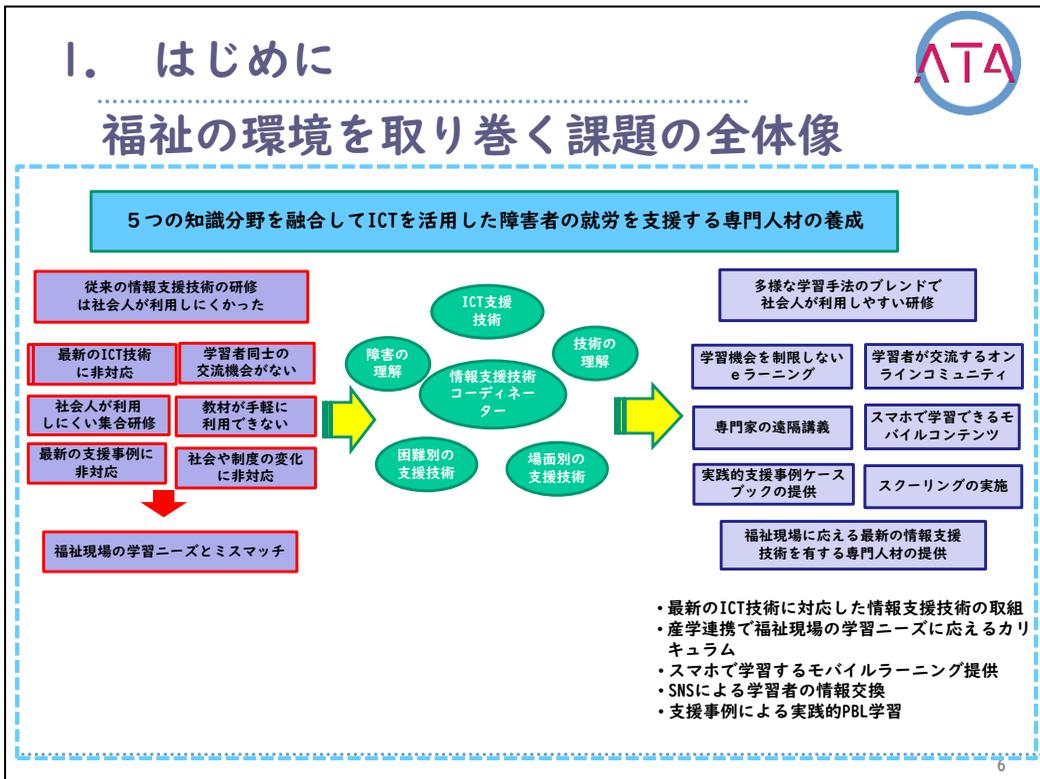
福祉の環境の課題として、ICTを活用した障害者の就労を支援する専門的な人材の養成が挙げられます。

ICTを活用した障害者の就労を支援する専門的な人材は、5つの要素を満たす必要があります。

5つの要素とは、ICT支援技術、障害の理解、困難別の支援技術、場面別の支援技術、技術の理解、です。

しかし、福祉現場の学習のニーズと環境が合っておらず、従来の情報支援技術の研修は社会人にとって利用が難しかったため、人材養成ができませんでした。

具体的な原因は、最新のICT技術に非対応であること、学習者同士の交流機会がないこと、社会人にとって利用が難しい集合研修であること、教材が手軽に利用できないこと、最新の支援事例に非対応であること、社会や制度の変化に非対応であること、などが挙げられます。



以上の理由から人材養成の実現が難しい環境にありましたが、本研修は、これらのマイナス要因を改善し、福祉現場に応える最新の情報支援技術を有する専門的な人材の提供を可能にしました。

具体的には、学習機会を制限しないeラーニング、専門家の遠隔講義、実践的支援事例ケースブックの提供、学習者が交流するオンラインコミュニティ、スマホで学習できるモバイルコンテンツ、スクーリングの実施、などを実現させました。

産学連携で福祉現場の学習のニーズに応えるカリキュラムなので、実践的で現場で役に立つ内容になっています。

目次



1. はじめに
2. 外部環境の理解
求められる技術 知識 手法
カリキュラムの構成
3. まとめ

目次

2-1. 外部環境の理解

2. 外部環境の理解



■ 外部環境の理解

ICTを活用した在宅雇用など障害者の就労
機会の拡大が注目されている



しかし

従来の情報支援技術の研修は社会人が利用し
にくかった

(最新のICT技術に非対応、社会人が利用しに
くい集合研修、最新の支援事例に非対応、学
習者同士の交流機会がない、教材が手軽に
利用できない、社会や制度の変化に非対応)

8

外部環境についてです。

ICTを活用した在宅雇用など障害者の就労機会の拡大が注目されていま
す。

しかし、従来の情報支援技術の研修は社会人にとって利用が難しいも
のでした。

具体的には、最新のICT技術に非対応、社会人の利用が難しい集合研修
、最新の支援事例に非対応、学習者同士の交流機会が無い、教材が手
軽に利用できない、社会や制度の変化に非対応、などが挙げられます
。

2. 外部環境の理解



■ 外部環境の理解



そのため

- 障害の特性に応じて環境を整備する、ICT技術と支援技術の両面を理解した専門家の育成が急務
- 障害者の自立と就労を支援する情報支援技術コーディネーターが必要

9

環境を整えるために、障害の特性に応じて環境を整備する、ICT技術と支援技術の両面を理解している専門家の育成が急務となっています。障害者の自立と就労を支援する情報支援技術コーディネーターが必要です。

目次



1. はじめに
2. 外部環境の理解
求められる技術 知識 手法
カリキュラムの構成
3. まとめ

10

目次

- 2-2. 求められる技術 知識 手法

2. 求められる技術 知識 手法



■ 求められる技術 知識 手法

ICT技術に関する知識
各種障害のための支援技術
特別支援教育
障害理解
障害者支援
高齢者に関する知識
法令・制度
アクセシビリティ
ユニバーサルデザインの知識

11

求められる技術 知識 手法は、
ICT技術に関する知識
各種障害のための支援技術
特別支援教育
障害理解
障害者支援
高齢者に関する知識
法令・制度
アクセシビリティ
ユニバーサルデザインの知識
です。

目次



1. はじめに
2. 外部環境の理解
求められる技術 知識 手法
カリキュラムの構成
3. まとめ

12

目次

- 2-3. カリキュラムの構成

2. カリキュラムの構成

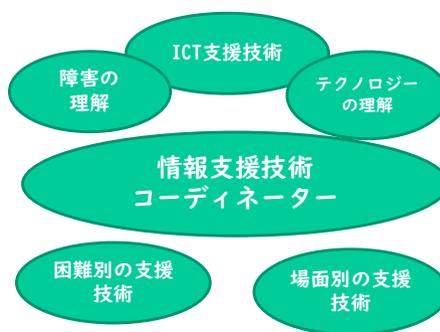


■ カリキュラムの構成

1. 障害の理解
2. テクノロジーの理解
3. ICTに関する支援技術
4. 困難別の支援技術
5. 場面別の支援技術

他 対面研修 実習

5つの知識分野を融合して
ICTを活用した障害者の就労を
支援する専門人材の養成



13

本プログラムは主に5つの知識分野で構成されています。

1. 障害の理解(①障害観の変化 ②社会の変化 ③障害の種類 ④法令・制度)
 2. テクノロジーの理解(①技術と人間 ②アクセシビリティ ③ユニバーサルデザインとバリアフリー ④支援技術)
 3. ICTに関する支援技術(①ICT機器の利活用 ②OS標準のアクセシビリティ機能 ③福祉機器の情報支援技術)
 4. 困難別の支援技術(①聞くこと ②見ること ③話すこと ④動くこと ⑤理解すること)
 5. 場面別の支援技術(①学習場面 ②就労場面 ③日常生活場面)
- です。

その他に、対面研修、実習があります。

2. カリキュラムの構成



多様な学習手法のブレンドで社会人が利用しやすい研修

学習機会を制限しないeラーニング

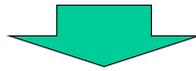
学習者が交流するオンラインコミュニティ

専門家の遠隔講義

スマホで学習できるモバイルコンテンツ

実践的支援事例ケースブックの提供

スクーリングの実施



福祉現場のニーズに応える最新の情報支援技術を有する専門人材を目指す専門家の遠隔講義

14

本プログラムは、多様な学習手法がブレンドされ、社会人が利用しやすい研修となっています。

学習機会を制限しないeラーニング、専門家の遠隔講義、実践的支援事例ケースブックの提供、学習者が交流するオンラインコミュニティ、スマホで学習できるモバイルコンテンツ、スクーリングの実施などにより、専門家の遠隔講義を受けることができます。

これにより、福祉現場のニーズに応える最新の情報支援技術を有する専門的な人材の育成を目指します。

目次



1. はじめに
2. 外部環境の理解
求められる技術 知識 手法
カリキュラムの構成
3. まとめ

目次

3. まとめ



3. 学習のまとめ

- 本日の講義のサマライズと振り返り
ICTを活用した技術支援の現状を理解する
- 現状を理解した上で、自身のスキルの棚卸をし、本プログラムでの自身の学びのゴール設定をする

16

学習のまとめです。

本日の講義のサマライズと振り返りをします。
ICTを活用した技術支援の現状を理解することができましたか。
中には、耳慣れない言葉や、初めて聞く内容が含まれていたかもしれません。

本編に入る前に、ぜひ一度、自身のスキルの棚卸をして下さい。
そして、最新の福祉機器について学習をするにあたり、本プログラムでの自身の学びのゴール設定をしてみてください。

以上です。

序 第3章



ATアドバイザーの意義と役割
障害者就労支援の現場から

事務局

この講義は、ATA研修 序 第3章「ATアドバイザーの意義と役割 障害者就労支援の現場から」です。

この章のねらい



- 「障害者就労支援の現場」の現状について委員のそれぞれの立場からの視点を学ぶ

- 学習のゴール
高度な情報社会の中で、障害者がより豊かで自立した生活ができるために、各自がそれぞれの立場でどのような支援ができるかの考えを深める

2

委員のそれぞれの立場から「障害者就労支援の現場」の現状について話して頂きます。

学習のゴールは、

高度な情報社会の中で、障害者がより豊かで自立した生活をするために、皆さんがそれぞれの立場でどのような支援ができるかという考えを深めること、

です。

委員の紹介



田代洋章 : (一社)日本支援技術協理事・事務局長

小野雄次郎:株式会社ユープラス 代表取締役

島田真太郎:テクノツール株式会社 取締役

大島友子 : 日本マイクロソフト株式会社 技術統括室
プリンシパルアドバイザー

清田公保 : 国立熊本高等専門学校企画運営部 教授

3

委員の紹介をします。

それぞれ障害者就労支援の現場から話して下さいます。

田代洋章 委員

小野雄次郎 委員

島田真太郎 委員

大島友子 委員

清田公保 委員

委員の紹介



堀込真理子:(社福)東京コロニーIT事業
本部職能開発室 所長
東京都障害者IT地域支援センター
センター長

田中勇次郎:(一社)東京都作業療法士会
会長(代表理事)

西澤利治 :株式会社電脳商会 代表取締役

黒崎嘉美 :有限会社ケー・アンド・エフ
コンピューターサービス 代表取締役

4

堀込真理子 委員
田中勇次郎 委員
西澤利治 委員
黒崎嘉美 委員
の9名です。

以上です。

序 3章1節



障害者就労支援の現場から

委員 田代洋章
(一般社団法人 日本支援技術協会 理事)

この講座は、ATA研修 序 第3章 1節「障害者就労支援の現場から」です。
講師は、一般社団法人 日本支援技術協会 理事 田代洋章 先生です。

委員紹介 田代洋章



- 障害のある人のICT利用を支援するための製品の開発・輸入・販売に約30年間企業活動として携わってきた
- 近年は一般社団法人を立ち上げ、非営利での啓蒙活動も行い、この度の人材育成には特に注力している



- 一般社団法人
日本支援技術協会
理事



2

田代洋章委員を紹介します。

田代委員は、障害のある人のICT利用を支援する製品の開発・輸入・販売に、企業活動として約30年間携わってきました。

近年は一般社団法人を立ち上げ、非営利での啓蒙活動も行い、この度の人材育成には、特に注力されています。



※講師映像のみ。スライドなし。

3

こんにちは。一般社団法人 日本支援技術協会の田代です。

人は暮らしていく中でコミュニケーションが重要であり、QOLで大きな影響があることは誰の目にも明らかです。障害のある人たちにとって、コミュニケーションの役に立てようとする情報支援技術は、その時代のニーズとシーズを色濃く反映しています。日本支援技術協会では、障害のある人や高齢の方のICTの利活用を促進して快適で豊かな生活が実現できるよう、さまざまな活動を行っています。研修会では座学だけでなく、障害体験や実際の支援技術製品を用いた実習を行っています。また、展示会を通じて広く社会へ知ってもらうための告知を行っています。

さらに最近では企業と協力して最新の技術を支援に活かすための活動を行っています。例えば日本マイクロソフトの協力のもと「Accessibility Developer Community」を運営しています。ここではAI等の最新技術の支援への運用を促し、新しい製品やサービスの開発に貢献しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

4

私が社会人としてデビューしたのは約30年前です。これまで情報支援技術に関連するいくつかの会社と団体に勤めてきました。普及、販売する立場で私が実際に体験した事柄に限って振り返ることで自己紹介に代えさせていただきます。

1995年頃までの話ですが、その頃勤めていた会社では他の福祉機器企業に先駆けて、主に重度な肢体不自由者向けにコミュニケーション支援機器を販売していました。MSXパソコンやMZパソコンに専用コミュニケーションソフトとスイッチとプリンタで構成したシステムで、1つのスイッチで文章を作成することができました。パシフィックサプライ社製の「漢字Pワード」やナムコ社製の「パソパル」などです。また、現在の日常生活用具給付制度の携帯用会話補助装置のモデルになった携帯型の意思伝達装置が注目されました。ナムコ社製の「トーキングエイド」が代表格です。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

次に1995年頃から2000年頃までの話です。海外のコミュニケーション支援機器の輸入販売に深く関わりました。その結果、それまで国内で販売していた製品のバリエーションや価格等を見直しが必要になりました。私は1回目の情報支援技術の黒船がやってきた時期だと思っています。1990年のADA法以後、各OSメーカーはアクセシビリティ機能を提供しています。WindowsやMac、そして近年のiOSやAndroidなどでもアクセシビリティ機能は標準で提供されており、基本的でありながら重要な機能です。

話を戻すと、海外のコミュニケーション支援機器の輸入は同時にコミュニケーション支援の技法を輸入し普及させることを意味していました。

この頃にAAC(Augmentative and Alternative Communication)の技法について各地で普及が図られていきました。AACは日本語で、「拡大・代替コミュニケーション」と言われます。具体的な製品は、AbleNet社製の「Bigmack」や「SpeakEasy」、Words+社製の「Message Mate」、Don Johnston社製の「Ke:nx」、ヒューマックリハビリテーションセンターの「フィデック」などです。日本では2000年前後に、日立の「伝の心」、ナムコの「パソパルマルチ」、NECの「オペレートナビ」、ファンコム「レッツチャット」などがリリースされました。



※講師映像のみ。スライドなし。

6

次に2000年頃から2010年頃のお話です。日本では2000年に障害者情報バリアフリー設備整備事業、2001年には障害者情報バリアフリー化支援事業を実施し、情報支援技術の普及、促進を図っています。この障害者情報バリアフリー化支援事業は、5年継続した後、日常生活用具給付制度の「情報・通信支援用具」に引き継がれました。この時に、ワードプロセッサから運用が変更されていたパーソナルコンピュータも廃止となりました。現在にもつながる公的補助の体制ができたのもこの時期です。多様なICT機器が一気に普及し、インターネットを利用すればさまざまなことができる社会になったのもこの頃です。例えば、携帯電話が通話を行う端末ではなく、インターネットを通じたサービスを受ける端末に進化したことが挙げられます。



※講師映像のみ。スライドなし。

7

そして2010年頃から現在に至る10年ですが、この時期に2度目の情報支援技術の黒船が襲来しました。それは「スマートフォン(以下スマホ)とタブレット」です。それまでの携帯電話は駆逐され、スマートフォンに置き換わっていきました。コミュニケーション支援機器の分野でもパソコンからスマホやタブレットへの変化が起きています。スマホやタブレットに優れた標準アクセシビリティが搭載されていることが、情報支援技術が普及した大きな理由です。手厚いアクセシビリティ機能が組み込まれていく1つの背景としては、2008年に障害者の権利条約が発効し、合理的配慮としてさまざまなものやサービスにアクセシビリティが求められたことにあると考えます。障害者向けに特別に開発する製品は減り、安い価格でそれまでと同様のコミュニケーション支援が実現できる環境になったのです。例えば専用のハードウェアで実現していたVOCAの機能はタブレットやスマホのアプリとして実行できるようになり、スイッチインターフェースがあればスイッチ1つで操作できる機能がはじめから備わるようになりました。



※講師映像のみ。スライドなし。

8

さて、これからの話です。タブレット、スマホのコミュニケーション支援での利活用は当社にとっては大きなメリットとなっています。しかし、これまで情報支援技術に関わってきた人たちの業務はコスト面で見直しを余儀なくされ、終息を決断するケースも多くあります。海外でこれまで大きな存在であった情報支援技術に関わる企業の廃業や、他企業による買収など、大きな変化が起きています。一般製品を良く知り、支援に活かしていく流れがこれからも加速していくと思われます。OSメーカーにとっては障害のある人も顧客であり、その人たちを囲い込むための戦略として標準アクセシビリティ機能は重要な働きをしていくと考えます。私たちは自分の足で歩かなくなり、ペンで書かなくなり、自分の頭で覚えなくなりました。いくつの電話番号を頭で覚えていますか？全ては携帯電話の中です。記憶の外在化はますます進み、社会で重宝されるのは散在する情報を集めてコーディネートする能力です。



※講師映像のみ。スライドなし。

9

これは支援する側だけではなく、支援される側にも言えます。例えば、学校や家庭で障害のある子供に対して、必要以上に歩かせたり書かせたり覚えさせたりしている現実を見聞きします。私たちがあまり使わなくなった能力を教えたり支援したりすることよりも、社会で通用する能力を育成していくことの方が重要だと思います。例えば、SNSで情報交換し、紹介されたお店に電動車椅子で行き、スマホで支払い、タブレットで仕事をするというスタイルの方が、今の社会にあった形です。私は情報支援技術のサービスのうち、物販による対価だけでなく、適合やサービスについても適切な対価が支払われるようになることが重要だと考えています。ボランティア活動を否定するものではありませんが、コストがゼロ円の活動はありえず、誰かがコストの回収を放棄している活動と言えます。どんな事業もコストの回収と次の活動のための資金が入ってこなければ、継続は望めません。



※講師映像のみ。スライドなし。

10

これから皆さんが学ぶことは、どれも大変重要なことばかりです。それらを学ばれた皆さんが社会の中で認知され、活躍できる社会の仕組みが必要だと考えます。

そのために私は今後も尽力していきたいと思えます。ありがとうございました。

以上です。

序 3章2節



障害者就労支援の現場から

委員 小野雄次郎
(株式会社ユープラス 代表取締役)

この講座は、ATA研修 序 第3章 2節「障害者就労支援の現場から」です。
講師は、株式会社ユープラス 代表取締役 小野雄次郎 先生です。

委員紹介 小野雄次郎



- 株式会社ユープラス 代表取締役
東京都立特別支援学校 ICT 外部専門家



- 本研修を受講される皆様には、企業での障害者雇用をサポートするスペシャリストとして、又、地域の障害者を支援するアドバイザーとして活躍して頂くことを期待しております。

- 株式会社ユープラス 代表取締役



2

小野雄次郎委員を紹介します。

小野委員は、障害者用支援機器の開発、製造、販売メーカーの株式会社ユープラス代表取締役で、東京都立特別支援学校のICT外部専門家です。

小野委員から受講生へのメッセージです。

「本研修を受講される皆さんには、企業での障害者雇用をサポートするスペシャリストとして、また、地域の障害者を支援するアドバイザーとして、活躍して頂くことを期待しております。」



※講師映像のみ。スライドなし。

3

こんにちは。株式会社ユープラスの小野です。

私はコミュニケーション機器のメーカーの代表です。常にコミュニケーション機器と関わって35年経ちます。

その経験を活かし、現在は都立の支援学校のICTの外部専門家も行っており、子供たちに対するタブレットやパソコンなどの適合を見えています。

ここではコミュニケーションを支援する機器について話します。

現在は電子技術を利用した支援機器が多く利用されていますが、そのような機械が登場する前は、障害者が紙に五十音が書かれた表を指し示すことで自分の意思を伝えていました。

自分で指し示すことができない重度な障害者の方たちは、瞬き等で文字を指し、それを介助者が読み取ることで意思を伝えていました。

その後、コミュニケーション機器が誕生していきます。

日本では、コミュニケーション機器の起源として、1985年に「トーキングエイド」という機械が誕生しました。

こちらが私どもの会社が開発している機械です。

「トーキングエイド」は五十音のキーボードを指で操作して、伝えたいことを文章で作っていきます。

それが液晶に表示されて音声合成で発声されるという機械です。

その前にキャノンが1974年に「コミュニケーター」という機械を発売していますが、これはアメリカのみの販売で日本では発売されていませんでした。



※講師映像のみ。スライドなし。

4

その後キャノンも「コミュニケーター」の日本語版を「トーキングエイド」の後に発売しました。しかし、会社の方針で撤退し、現在は販売されていません。

一方、「トーキングエイド」は、時代のニーズに応じてモデルチェンジを行い、現在はiPadを使っています。

iPadにアプリをダウンロードすることで使える「トーキングエイド」と、専用のタブレットを使った「トーキングエイドプラス」の2機種が販売されています。

次に、コミュニケーション機器の分類です。

知的能力と身体能力の違いによって大きく3つに分けられます。

1つめは、シンボルを使ったVOCA(Voice Output Communication Aid)という機器です。

対象は、知的能力の低い子供、例えば、ひらがながわからない子供や、身体が不自由で知的能力も低い方などです。

自分の意思や伝えたいことをあらかじめ録音しておいて、伝えたい時に再生します。

そのような機器が開発される前は、絵カードを使い、自分の意思のカードを指し示すことで意思の疎通を測っていました。

例えば「何が食べたいの?」と言うと自分の食べたいカードを出す、という形です。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

2つめは、携帯用会話補助装置です。

対象は、知的能力が高く、ひらがなが使える方です。また、身体能力として、一般のキーボードの使用や書字は難しいけれど、ある程度文字を打つことができる方です。



※講師映像のみ。スライドなし。

6

先程紹介した「トーキングエイド」はここに入ります。

脳性麻痺、脳血管障害の方、あるいは神経難病、発達障害の方が使っています。

3つめは、重度障害者用意思伝達装置という機械です。

体のわずかな動く部分を操作して文字を作っていく、意思を伝えるという機械です。

ALS、筋萎縮性側索硬化症の方や、神経難病の方が多く使われています。これらの機器は、自費で購入される方もいますが、日本では福祉制度があり、給付ができます。

先ほどの携帯用会話補助装置は日常生活用具の給付制度があります。

申請することで、必要な方に自治体から給付できる制度です。

日常生活用具はその他に、盲人用体温計や盲人用体重計、点字ディスプレイなどがあります。

また、本支援技術に関わるものとして「情報通信支援用具」という項目があります。

通常市販されている状態のパソコンでは使えない障害を持っている方が、付属物あるいはソフトを加えることで使えるようになる場合はそれらの付属物、ソフトを給付するという制度です。

例えば、視覚障害の方がパソコンを使う場合に音声の出るようなソフトが必要です。

その音声ソフトは情報通信支援用具の給付対象になります。



※講師映像のみ。スライドなし。

7

もう一つ、重度障害者用意思伝達装置が含まれる制度に、「補装具費支給制度」というものがあります。補装具は、身体の欠損または損なわれた身体機能を補完、代替する用具です。

重度障害者用意思伝達装置の他に、車椅子、義肢、装具、義眼などが挙げられます。

この両制度は今後のカリキュラムで詳しく学習しますので、ここでは簡単な説明と代表的な機器を紹介します。

まず携帯用会話補助装置ですが、「携帯式で言葉を音声または文章に変換する機能を有し、障害者が容易に使用し得るもの」と定義されています。

給付の上限額は、東京都の主な自治体では285,000円ですが、その他の自治体では98,800円というように、その運用は自治体に委ねられているため、給付基準が自治体によって異なります。

そのため利用する際には自治体にその条件を確認する必要があります。

主な携帯用会話補助装置は、先ほど紹介した「トーキングエイド」や「ペチャラ」という機械などがあります。

次に、重度障害者用意思伝達装置です。

「意思伝達機能を有するソフトウェアが組み込まれた専用機器であること、文字盤またはシンボル等の選択による意思の表示等の機能を有する簡易なもの」と定義されています。



※講師映像のみ。スライドなし。

8

給付の上限額は国の基準で決まっています。

簡易なもの143,000円、簡易な環境制御機能が付加されたもの191,000円、高度な環境制御機能が付加されたもの450,000円と、それぞれの機能に応じて金額が異なります。

主な対象者は、ALSあるいは神経難病患者や重度な脳性麻痺の人たちなどです。

主な重度障害者用意思伝達装置は、スイッチで入力できる機器として「伝の心」、「話想」、「オペレートナビ」などがあります。

また最近は、視線で入力する「マイトビー」、「Miyasuku」などが販売されています。

今回はコミュニケーション機器の代表的なものを紹介しましたが、パソコンやタブレット、スマホなどの汎用品を活用できるケースもあります。

以上のように、コミュニケーション機器はそれぞれ特徴があります。

そして、これらの機器を利用するためには、利用する人の障害の度合い、ニーズ、設置する際の周辺環境、介助者のスキルなど、さまざまなものを加味する必要があります。

その後のサポートも含め、それらを実施できる人材として、本研修を受講される皆さんの活躍を期待しています。

以上です。

序 3章3節



障害者就労支援の現場から

委員 島田真太郎
(テクノツール株式会社 取締役)

この講座は、ATA研修 序 第3章 3節「障害者就労支援の現場から」です。
講座は、テクノツール株式会社 取締役 島田真太郎 先生です。

委員紹介 島田真太郎



- 2012年にテクノツール株式会社に入社
- コミュニケーション支援機器、アームサポート、ロボットアーム、点字文章作成ソフト等 アシスティブテクノロジーの開発、輸入、販売に取り組む



- テクノツール株式会社 取締役

2

島田真太郎委員を紹介します。

島田委員は、2012年にテクノツール株式会社に入社され、コミュニケーション支援機器、アームサポート、ロボットアーム、点字文章作成ソフト等、アシスティブテクノロジーの開発、輸入、販売に取り組んでいます。



※講師映像のみ。スライドなし。

3

今回、アシスティブテクノロジー・アドバイザーの検討委員をしています、テクノツールの島田真太郎です。

テクノツールは、体が不自由で、マウスやキーボードが使えない、スマホのタッチ操作ができない、テレビゲームで遊べない、という人たちにに向けた入力デバイスを開発したり、海外に良いものがないか探して輸入する、ということをしています。

その他にも、弱い力で腕を動かせるアームサポート、目の不自由な人が使う点字の文章を作成するソフト、ロボットアームなどのようなアシスティブテクノロジーに関わっています。



※講師映像のみ。スライドなし。

4

私が、アシスティブテクノロジーを提供する立場として心がけていることは、選択肢を増やすということです。

一人ひとり違ったニーズがあり、デザインの好みやこだわりも違います。

したがって、「自分たちテクノツールの商品にこだわらず、社会全体として選択肢が増えていくと良いな」というのが私のスタンスです。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

例えば、「車がほしい」と思った時に世界中に1種類しかないとしたら、困ります。

「5人乗りのセダンが200万円です。これしかありません。」という状況では、7人家族の人は乗り切れないので諦めるかもしれませんし、車いすに乗っている人もそのまま中に乗ることができないので大変で困ります。このような場合、違うデザインや価格帯のものがほしいと思う人が沢山いると思います。

自動車メーカーが多様なニーズをキャッチしてこれだけのラインナップを広げてきたので、今いろいろな車種があり、選択肢があるから、自分のニーズや好みに合ったものを見つけることができるわけです。

同じように、世界中のアシスティブテクノロジーに関わる人たちの多くは、「選択肢は多い方がよいよね」というスタンスをとっていると思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

6

アシスティブテクノロジーの選択肢ということで、例えば、「マウスが使えない時にどのような選択肢があるのか」という例を紹介します。

良く使われるのがジョイスティック型のもので、他にもトラックボールやトラックパッド、タッチパッドなどもあります。さらに変わったものとして、頭にかぶって首を上下左右に振る動きで使うマウスなど、いろいろなタイプがあります。

そして、ジョイスティック1つとっても、パームレストに腕をのせて使うデザインや、指先やあごのわずかな動きで使いやすいようにデザインされているものもあります。

こちらは震えのある人でも使いやすいように、バーをしっかりと握って使うようにデザインされています。

こちらは足元やあごで動かしやすいように省スペースのデザインになっています。

さらに、口にくわえて動かすタイプものもあります。

このように、マウスの代わりになるもの1つとってもこれだけの種類があり、多種多様なものが世の中にはあります。



※講師映像のみ。スライドなし。

7

選択肢が増えたら、次にどれかを選びます。

車で言えば、「買物用だから軽で十分だ」、「環境問題に関心があるから配慮したいから高くても電気自動車にしよう」、「ポルシェのデザイン、世界観が好きだからどうしてもこれが良い」と選ぶ理由もさまざまです。

アシスティブテクノロジーの場合も同じように選択しますが、車のように一般的なものではないので、使う本人が適切なものを選べるとは限りません。

その人に合ったものを選ぶためには、前提になる知識が必要になります。

ここが正にアシスティブテクノロジー・アドバイザーの活躍の場になります。



※講師映像のみ。スライドなし。

8

一人ひとりの体や心の状態、やりたいこと、生活環境などの要素を把握して、適切なテクノロジーを探して選びます。場合によっては、利用しやすくするために設定をする、他のものと組み合わせて導入していく、ということもあると思います。

しかも、1回導入したら終わりではなく、使う本人の状態や使う目的、やりたいこと、環境の変化に応じて、継続的にアドバイスしていくことが求められます。

テクノロジーの選択肢とその導入を支援できるアドバイザーが増えることで、より多くの人たちのQOLが向上して社会参加が進んでいくことを期待しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

9

さて、ここでインタビューを挟みます。

テクノツールには障害当事者のメンバーがいます。

この機会に、当事者の立場からアシスティブテクノロジー・アドバイザーによせる思いを聞いてみたいと思います。

(インタビュー)

Q. 当事者からお話を聞きたいと思ひまして、テクノツールで一緒に働いている本間さんに来て頂きました。よろしくお願ひします。

本間さんは、20年以上テクノツールでプログラマーとして働いている方で、今も販売されているいろいろな商品とかソフト開発に携わっています。

普段は、在宅で勤務をされている方です。



※講師映像のみ。スライドなし。

10

Q. アシスティブテクノロジー・アドバイザーにはどんな価値があると思いますか？



※講師映像のみ。スライドなし。

A. 障害を理由に社会参加を諦めている人たちのチャンスを広げることができると思います。

僕が若い時は、テクノロジーのアドバイスをくれる人がいなかったから、自分でやりました。結構大変でした。

でも、挫折する人が多いと思うので、サポートしてくれる人が必要だと思う。



※講師映像のみ。スライドなし。

12

Q. どんな人たちにアシスティブテクノロジー・アドバイザーになってほしいですか？



※講師映像のみ。スライドなし。

13

- A. 障害当事者に接する機会が多い人たちこそ、詳しくなってほしい。当事者本人や家族が詳しい人を探して、問い合わせをするのは大変だから。
- 学校や療育センターや、生活支援センターにいるような人たちがアドバイスできるようになれば、自然とチャンスが広がっていくと思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

14

Q. これからアシスティブテクノロジー・アドバイザーになろうという人たちに、どんなことを期待しますか？



※講師映像のみ。スライドなし。

15

A. 積極的に当事者に関わって、アドバイスや情報提供をしてほしい。自分になにができるのか、どんな可能性があるのか、当事者本人や家族がわかっていないことがまだ多くあると思います。

テクノロジーをうまく使って、本人がいろいろな可能性を感じたり、「できる」という体験ができれば、やる気や自信が出てくるはず。それがあれば、当事者本人の人生は大きく変わるし、周りも変わっていくと思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

16

Q. 大げさかもしれないですけど、そうやって本人や周りの人たちの変化が積み重なっていくと、社会全体にも影響を与えそうですね。



※講師映像のみ。スライドなし。

A. そうですね。当事者の社会参加が更に増えれば、障害者への理解力が今よりもアップすると思います。「心のバリアフリー」にも繋がるのではないのでしょうか。

(インタビュー終了)



※講師映像のみ。スライドなし。

18

当事者の1人として、本間さんにお話を伺いました。

本間さんが言うようにアシスティブテクノロジー・アドバイザーは、多くの人たちの埋もれている可能性を引き出して、人生を大きく変える手助けをすることができます。

そのような人たちが増えてくれば、今は健常者と障害者とわけて考えられていますが、そもそも一人ひとり違う人間だという認識が広まって、違いが尊重される、もしくは違いがポジティブにとらえられる社会につながっていくと思います。

もちろん私たち、テクノロジーの提供者側も、歩みをとめてはいけません。

皆さんと異なる立場からともにアシスティブテクノロジーの普及に努めていきます。

ぜひ最後までカリキュラムを終了して、そこで得た知識や考え方を活かして、積極的に当事者の方々と関わって行って下さい。

以上です。

序 3章4節



障害者就労支援の現場から

委員 大島 友子
(日本マイクロソフト株式会社
プリンシパルアドバイザー)

この講座は、ATA研修 序 第3章 4節「障害者就労支援の現場から」です。

講師は、日本マイクロソフト株式会社 プリンシパルアドバイザー 大島友子 先生です。

委員紹介 大島 友子



- 日本マイクロソフト社にて、障害のある方や、高齢の方に向けた技術や活動を担当
- Windowsなどのアクセシビリティ機能や、AIを使ったアプリのリリースや助成プログラムを実施



■ 大島 友子
日本マイクロソフト株式会社
プリンシパルアドバイザー

2

大島友子委員を紹介します。

大島委員は、日本マイクロソフト株式会社に入社した後、プリンシパルアドバイザーとして、障害のある方や高齢の方に向けた技術や活動を担当され、Windowsなどのアクセシビリティ機能、AIを使ったアプリのリリースや助成プログラムを実施しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

3

マイクロソフトでアクセシビリティを担当している、大島です。
私はアクセシビリティの仕事をする中で、アシスティブテクノロジー・
アドバイザーの重要性と必要性を強く感じてきました。
そこで今回、検討委員会の委員をしています。

マイクロソフトでは、障害のある方に向けたさまざまな技術を提供する
活動を行っていますので、本日はそちらを少し紹介します。

「アクセシビリティ」という言葉は「アクセスのしやすさ」を表してい
て、障害のある方でも障害のない方と同じようにパソコンや情報にアク
セスできるという意味です。

マイクロソフトでは、このアクセシビリティに対して、長年取り組んでき
ました。

1980年代の終わりの頃、Windowsの初期のバージョンを出した時に、障害
のある方から「新しいWindowsが使えない」という話を聞き、そこからア
クセシビリティの研究を始めました。



※講師映像のみ。スライドなし。

最初は、Windowsにアクセシビリティ機能を追加するパッケージを出しましたが、その後、標準の機能としてアクセシビリティ機能を搭載しました。

その後はWindowsのアップグレードの度にアクセシビリティ機能も、機能の追加や向上を続けてきています。

しかし現在は、「障害のある方もWindowsのようなOSにアクセスできる」だけではなく、AIなどの新しい技術によって「障害のある方が本来の力を出すことができる」ようになることを目指しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

まず、AIを使ったマイクロソフトのテクノロジーを紹介します。
1つ目は、iPhoneに向けた「Seeing AI」というアプリです。
こちらは、視覚に障害のあるマイクロソフトのエンジニアがマイクロソフトで開発しました。
現在AppStoreで無料配布しているアプリです。

ここで1つ映像を見て頂きます。



※講師映像のみ。スライドなし。

6

このように、「Seeing AI」は視覚に障害があって見るができない人の、目の代わりになるものを目指しています。

「Seeing AI」は、iPhoneのカメラで撮った画像をマイクロソフトのクラウド「Azure Cognitive Services」に送り、画像の解析をして、「何が写っているか」あるいは「何が書かれているか」を判断します。そして、そこで得られた情報を再びiPhoneに戻し、iPhoneで読み上げをする、という機能を持っています。

このアプリは、それまで英語版は発売されていましたが、日本語版は2019年12月に提供を開始しました。



※講師映像のみ。スライドなし。

7

AIを使ったアプリが他にもあります。

2つ目は、「Office Lens」というアプリです。

こちらは、特に障害のある方に向けたアプリではありませんが、この中に「イマーシブリーダー」という機能があります。これは、取り出したテキストの読み上げや文字の拡大などができる機能です。これにより、ホワイトボードや紙のドキュメントを撮影し、OCRにかけてテキストだけを取り出して、文字を大きくしたり読み上げたりすることが、このアプリの中だけでできます。

もともとは一般の方に向けて、会議中に議事録をとる時や、紙を撮影してPDFにする時などに使うことを想定したアプリですが、ディスレクシアの方や弱視の方も使えると思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

8

次は「Microsoft Pix」というカメラアプリです。

一般の方に向けたカメラのアプリですが、この中にもAIの機能を搭載しています。それにより、画像からテキスト情報を取り出して、そのテキストの拡大や読み上げ、他の人との共有などができます。

こちらも、通常アプリの中に、弱視の方やディスレクシアの方に使うことのできる機能が入っています。



※講師映像のみ。スライドなし。

9

次は「Translator」です。

独自のアプリや、PowerPointというプレゼンテーションソフトに追加する無料の機能もあります。

その機能を使うと、プレゼンテーション中に喋っている言葉を自動的に文字に変換します。そして、それを後から共有することや、間違った部分を修正することもできます。

元々がトランスレーター(通訳)のアプリなので、日本語で喋ったものを英語で表示することができますが、日本語で喋っているものを日本語で表示することもできますので、完全ではありませんが、情報保障の1つとして使うことができます。



※講師映像のみ。スライドなし。

10

続いて、Windowsの基本的な機能も少し紹介します。講座の中でもWindowsのアクセシビリティ機能を紹介しています。

ここでまた1つ、映像を見て頂きます。



※講師映像のみ。スライドなし。

11

実際にWindowsのアクセシビリティ機能を使っている人の様子を見て頂きました。

画面上に出てくるキーボードは「スクリーンキーボード」と言い、Windowsの標準の機能です。

映像に出ていた青年は、勉強や友達とSNSをすることなどに使っています。彼は指を動かせる範囲が小さいので、パソコンに付いている通常のキーボードを使うことができません。しかし、スクリーン上のキーボードは、小さなマウスを使って自分で入力することができます。



※講師映像のみ。スライドなし。

12

今は、Windowsの標準の機能として、視線制御の機能も搭載されています。

通常のパソコンなどについているWebカメラでは目の動きをとらえることができないため、追加で「アイトラッカー」というデバイスをUSBでつなげる必要があります。アイトラッカーをつなげてWindowsの中に入っているソフトを使うことにより、目の動きでマウスのカーソルを動かすことや、目で見続けることで文字を入力することもできるようになっています。

専用のシステムとして使われているものに比べて、機能はとても基本的なものになっていますが、専用のシステムを買う前の段階の方が試しに使ってみることはできると思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

13

また、マイクロソフトはWindows以外にもMicrosoft Officeの製品を提供していますが、この中にも障害のある方に向けたさまざまな機能を提供しています。

特徴的なものは、Wordに入っている「イマーシブリーダー」です。Wordの文章を読み上げる、文字を大きくする、文字間や行間を広げる、読んでいる所にフォーカスをあててそれ以外を隠す、などの機能が入っています。

このように、WindowsやMicrosoft Officeなどに、障害のある方が便利に使うことのできる機能を搭載し、アップグレードもしています。

また、最初に紹介したようなアプリも、いくつか提供しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

14

もう1つ映像を見て頂きます。



※講師映像のみ。スライドなし。

15

映像に出てきた白いデバイスは、「アダプティブコントローラー」と言います。マイクロソフトが出しているXboxと言うゲーム機やWindowsのパソコンにつなぐことができます。そして、アダプティブコントローラーの大きなボタンにゲームコントローラーのボタンを割り当てることや、デバイスの後ろに沢山のスイッチを挿せるようになっているので、普段自分が使っているスイッチをつないで使うこともできます。

このようなものもマイクロソフトから発売しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

16

最後に1つ、マイクロソフトの取組みを紹介します。

「AI for Accessibility」という助成プログラムです。障害のある方に向けてAIを使っている研究などにマイクロソフトから助成金を出す、というプログラムです。2018年から取組みを開始しているので、日本の研究者やエンジニアの皆さんにもぜひ検討してほしいと思います。



※講師映像のみ。スライドなし。

17

こちらはワールドワイドのプログラムなので、日本から応募することが難しい面もあると思います。そこで、日本支援技術協会と協力して「Accessibility Developer Community」というコミュニティを組織しています。オンラインやオフラインでアイデアを出し合い、AI for Accessibilityの応募につなげていく活動も行っています。



※講師映像のみ。スライドなし。

18

WHOによると、何らかの障害のある方は世界に10億人以上いる、とされています。しかし、今日紹介したような製品やテクノロジーにアクセスできている人は、10人に1人とされているそうです。

マイクロソフトの企業ミッションは「地球上のすべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする」というものです。私たちのアクセシビリティに対する機能や活動は、正にこれに沿ったものになっていると思いますので、今後もこの分野に力を入れていきたいと思っています。

以上です。

序 3章5節



障害者就労支援の現場から

委員 清田公保

(国立熊本高等専門学校企画運営部 教授)

この講座は、ATA研修 序 第3章 5節「障害者就労支援の現場から」です。
講師は、国立熊本高等専門学校 企画運営部 教授 清田公保 先生です。

委員紹介 清田公保



- 国立熊本高等専門学校 企画運営部・教授
日本福祉工学会・理事
日本支援技術協会・理事
- 国立高専は全国に51校あり、電気電子、土木建築、機械、生物化学など工業系の技術者を養成する高等教育機関
- 福祉支援機器の研究開発を行う全国Kosen-ATネットワークを組織して、AT技術者の育成に取組む



- 国立熊本高等専門学校 企画運営部・教授

2

清田公保委員を紹介します。

清田委員は、国立熊本高等専門学校企画運営部の教授であり、日本福祉工学会理事、日本支援技術協会理事として福祉業界に従事しています。

国立高等専門学校は全国に51校あり、電気電子、土木建築、機械、生物化学など工業系の技術者を養成する高等教育機関です。

清田委員はこの中で、福祉支援機器の研究開発を行うKosen-ATを組織して、AT技術者の育成に取り組んでいます。



※講師映像のみ。スライドなし。

3

受講生の皆さん、こんにちは。私は日本福祉工学会理事の清田と申します。

私は全国に51校ある国立高等専門学校機構の熊本高等専門学校の教員でもあります。

ここでは私たち高等専門学校教職員が作っているKosen-ATの活動について簡単に説明します。



※講師映像のみ。スライドなし。

国立高等専門学校機構が作る支援機器開発ネットワーク「Kosen-AT」について簡単に説明します。

超高齢化に伴う福祉医療の充実は、日本を含め世界的規模の課題ともなっています。文部科学省では合理的配慮を基本とするインクルーシブ社会の早期実現に向けた政策を進めています。

こうした中で、国立高等専門学校でも福祉機器の産業や教育組織におけるAT(アシスティブテクノロジー)の機器開発を担うAT技術者の育成を進めています。

国立高等専門学校は全国に51校あります。その中で現在は18校がKosen-ATに参加しています。また、その他に国立特別支援教育総合研究所、日本支援技術協会、日本福祉工学会などの学協会などとの連携も行っています。

全国の国立高等専門学校で組織されたKosen-ATでは、障害者や教育、福祉、医療の現場で関係者の意見を研究活動にフィードバックすることを進めており、現場のニーズを有する当事者と高等専門学校の学生との共同研究開発により、AT技術者教育プログラムの実証と福祉機器産業への人材活用の展開を検討しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

北は北海道から南は沖縄まで全国51校のネットワークをうまく使うことにより、これまで福祉機器のアフターサービスやその他全国の特別支援学校や教育医療機関などにおいて、多様な支援体制をとることが可能となります。また、福祉機器の開発に多くのコストがかかっていると考えており、国立高等専門学校では卒業研究や共同研究などを通してさまざまな福祉機器の開発にも協力していきたいと考えています。



※講師映像のみ。スライドなし。

6

本ネットワークは2012年(平成24年)9月に、福祉、情報教育に関心があり、実際に地元地域の支援学校と連携活動を行っている10校の国立高等専門学校¹の教職員でスタートしました。そして現在は18校に拡大されています。これまでも文部科学省の支援事業に採択されており、この中でさまざまな支援機器を開発してきました。



※講師映像のみ。スライドなし。

Kosen-ATではこれまでの活動を通してATスキルマップの標準化を行っています。

国立高等専門学校における工学の専門技術に加えて、医療福祉機関の関係者とコミュニケーションをとりながら、高齢者や障害者の現場のニーズを取り上げるATスキルの教育プログラムが掲げられています。

このようなATスキルを持った人材育成をこの先は考えています。

そしてさらに、このようなATスーパー技術者のスキル標準を通して最終的にはATアドバイザーの認定資格を取得するような仕組みを考えています。



※講師映像のみ。スライドなし。

8

また国立高等専門学校ではこのようなAT技術者の育成のために、実際の教育プログラムにこのATスキルの標準化を行ったものを組み込んでいます。具体的には函館高等専門学校や熊本高等専門学校などで実際の学生の実習や創造実験などにこのようなATスキルの研究開発を取り入れています。

このような活動を通して国立高等専門学校が持つKosen-ATでは日本支援技術協会などと連携し、特別支援学校、NPO法人、日本福祉工学会などの学協会と連携して、さまざまな機器を開発しています。また、福祉支援機器の開発をしている企業やメーカーなどと連携しながら社会福祉法人と連携をとっていろいろな地域の困っている当事者のために活動をしていきたいと考えています。



※講師映像のみ。スライドなし。

Kosen-ATではこれまでの研究成果をもとにタブレットやiPadで動作するアプリの開発や組立て式電子視野計、視覚に障害がある生徒向けに音声を読み取るペンダント型のタッチカラーなどの製品を開発しています。このようなものを実際に特別支援学校などと連携しながら活用していく予定です。



※講師映像のみ。スライドなし。

10

これはKosen-ATで作った国立高等専門学校AT技術者向けのスキル標準ガイドブックです。この中にはICTの専門技術者や機械系、制御系の技術者にとっても必要なアシスティブテクノロジーの基本的なスキルが詰まっています。この教科書をベースに先行して函館高等専門学校、熊本高等専門学校でもさまざまなカリキュラムに取り入れています。また、卒業研究においては現場のニーズに対応して多様な卒業研究の成果が出ています。このような卒業研究をもとに実際に現場で使ってもらえそうな新機器を開発しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

11

これは仙台高等専門学校の竹島先生の下で開発された、パルス出力機能付きのスイッチ「ラッチ&タイマー」です。

肢体不自由の生徒でもボタンを押すだけで簡単にマウスのオンオフをすることができます。また、1回押すとスイッチがオン、もう1回押すとスイッチがオフになるなどのオンオフの機能、ある程度時間が経過すると自動的にスイッチが切れるタイマーの機能などが付いている、非常に高性能なラッチ&タイマーです。

実際には組立てキットで販売しているので、特別支援学校の先生方に使ってもらおうということを考えており、全国にある我々のネットワークのメンバーが公開講座などで実際にはんだ付けなどの指導を行っています。これまでに二百数十個のキットが販売されています。



※講師映像のみ。スライドなし。

12

開発したKosen-ATのキットの紹介です。

これは仙台高等専門学校竹島先生の研究室で開発されたラッチ&タイマーです。一般にはマウスは左ボタンなどを押すだけで操作ができますが、肢体不自由の生徒の場合、1回ボタンを押してすぐに上げるという動作が難しくなります。実際にパワーポイントなどの動作を進める上では、マウスのボタンを押して上げた時に動作が進行するので、そのタイミングをこのラッチ&タイマーで自動的に作ります。

長年の研究の結果、このツマミ一つでいろいろな動作を変えられるように改良してあります。ダイレクトモードでは1回ボタンを押すとオンになり、離したらオフになります。これが一般のスイッチのモードになります。また、ツマミをあげていって1秒にすると、1秒オンになった後にスイッチが切れるような、時限タイマーの機能があります。

このようなものを今回はマウスのスイッチに入れていますが、おもちゃや電化製品のスイッチに繋げることで、指定した時間にオンまたはオフにするという動作が可能になります。また、スイッチは外部にも繋げることができます。こちらのスイッチに外部スイッチを接合してオンやオフにすることが可能です。



※講師映像のみ。スライドなし。

13

こちらも仙台高等専門学校竹島先生の研究室で開発されたLEDタイマーです。

ボタンを押すとあらかじめ設定した時間の間、5秒間隔でLEDがカウントダウンしていきます。そして最終的にゼロになった時にLEDが点滅して終了を知らせます。時間の間隔をとらえにくい生徒が、ボタンを押すことで簡単に時間を有効利用することが可能になります。



※講師映像のみ。スライドなし。

14

次に熊本高等専門学校の私の研究室で開発した視覚障害者向けのアプリを紹介します。



※講師映像のみ。スライドなし。

15

このように、画面のどこに書いても文字を入力することができます。視覚障害の方が手軽に手書きでメモを取ることが可能です。なにも文字を書かない時には、時間がたてば自動的に音声ガイドでいろいろな使い方を教えてくれます。



※講師映像のみ。スライドなし。

16

次に、入力した文書を素早く読むためのツールを紹介します。

最近のタブレットPCでも、一般的なテキスト合成ソフトで音声にして読み上げることが可能です。これはその他にも自分の指さしたところを読み上げる機能を持っています。なぞり読みシステムと言います。画面上に何が書かれているかよくわからない時に指でさすと、その指の先にあるテキストを読み上げます。視覚障害者の方でもこれを用いて速読ができる機能です。また狙ったところをダブルクリックすると、そこから通常のテキスト読み上げのように読み上げることができます。また、ダブルタップで次のページに先送りすることができます。



※講師映像のみ。スライドなし。

17

いかがでしたか？全国に51校ある国立高等専門学校のうち18校が、現在このKosen-ATに参加しています。それぞれの地方での困っていることや当事者のニーズを題材として、各校にて卒業研究などを通して新機器の開発を行っています。このような中で将来的にAT技術者を育てていきたいと考えています。これからも国立高等専門学校のAT活動に協力をよろしく願います。

以上です。

序 3章6節



障害者就労支援の現場から 働くカタチはひとつじゃない

委員 堀込真理子
(社会福祉法人 東京コロニー職能開発室)

この講座は、ATA研修 序 第3章 6節「障害者就労支援の現場から 働くカタチはひとつじゃない」です。

講師は、社会福祉法人東京コロニー職能開発室 堀込真理子 先生です。

委員紹介 堀込真理子



- IT企業を経て現法人に入職以来、一貫して重度障害のある方の就労の道を模索
- 技術が自立の手段という確信のもと、IT教育を自宅に出向き実施、技術者を育成
- 在宅就労に特化した職業紹介や、雇用されない働き方の支援のしくみをつくる
- 現在、東京都障害者IT地域支援センターの責任者としても、身近なゲートを目指す



- 社会福祉法人東京コロニー職能開発室 所長

2

堀込真理子委員を紹介します。

堀込委員は、IT企業を経て現法人に入職以来、一貫して重度障害のある方の就労の道を模索し、「技術が自立の手段である」という確信のもと、IT教育を自宅に出向き実施、技術者を育成しています。

在宅就労に特化した職業紹介や、雇用されない働き方の支援の仕組みをつくっています。

現在、東京都障害者IT地域支援センターの責任者としても、身近なゲートを目指しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

3

皆さんこんにちは。社会福祉法人東京コロニー職能開発室の堀込です。
よろしくお願いします。

私がある職能開発室は1980年代から、重い障害の方、疾病の方の働き方の研究をし、支援を開始しました。

現在行っている教育の特徴は、障害がどんなに重い方でも就労水準にある情報処理の教育、研修を受けて仕事に繋げていくというものです。

就労生が約130人いますが、その8割が在宅で勤務しており、5割が情報処理の国家資格を取得しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

この事業は30年間続けていますが、一貫してこだわったことは3つだけです。

1つめは、どんなに障害が重くとも、技術がどんなに進歩しても、飯の種を得るために必ずICTの技術は獲得するという事です。

2つめは、アナログでもデジタルでも良いので、必要な道具は全部活用するという事です。

3つめは、自分に合った環境下で働くことです。トイレや食事などを自宅以外でできない方が多いので、それが在宅勤務、テレワークに繋がりました。

その結果、必要な機能を4つに分けて4事業を展開していますが、そのうちの1つが支援機器の活用ということで、東京都障害者IT地域支援センターの開設に繋がりました。



※講師映像のみ。スライドなし。

5

私はこの世界に入る前は、パソコンメーカーでカスタマーサポートのマネジメントをしていました。効率アップのために、お客様との電話が長引いているケースをチェックして早く切り上げるように対策する仕事でしたが、長引くケースの中に、障害のあるユーザたちがいました。その中には、会話に時間がかかる方、操作をしながらナビゲーションするので操作に時間がかかる方、代筆してもらって手紙でやり取りをする方など、障害のあるユーザとの沢山の出会いがありました。その中で、自分の扱う製品を本当に求めているのはこのように障害のあるユーザであると知り、職域転換に繋がりました。その後は外出困難の障害の重い方の情報処理教育とその後の在宅ワーク、在宅就労支援に二十数年費やし、今も続けています。



※講師映像のみ。スライドなし。

6

障害のある方の就労において技術が欠かせないものであることは明らかですが、現時点でも非常に多くの技術がうまれており、放っておいてもさらに進歩していくに違いありません。しかし、それを組み合わせる、あるいは利用者の方に適合してくれる人材や、協力して利用、工夫してくれる人材の存在が非常に重要です。そのような人材が身近にいる環境を整えるためにも、今回のアシスティブテクノロジーの専門的な人材の育成に非常に期待しています。



※講師映像のみ。スライドなし。

就職支援の現場の中で良く見かけるのが、合理的配慮が義務化された今でも、支援機器の使用や購入がなかなか叶わないケースです。中には自費で購入している場合もあります。社内では「その人が業務をするために絶対に必要なものではない」という理由で、合理的とは言えないという判断を下しているのですが、それは支援技術がもたらすメリットに会社の方が気づいていない、知らないということが原因であると考えられます。

支援技術を活用することによって、その人の体力が温存でき、生産性を上げることができます。



※講師映像のみ。スライドなし。

8

それはいずれ会社に利益をもたらし、会社に経験値がたまり、さらにそれが繋がっていくという素晴らしい結果があるのですが、会社の方はそれがわからない、知らないということです。そのような場合に、アシスティブテクノロジーを理解している方が会社にいれば、第三者の目線から環境を整えていくことができます。

この専門的な人材育成の場で学ばれた方が現場にいて、会社との橋渡しを下さることを願ってやみません。

以上です。

序 3章7節



障害者就労支援の現場から 作業療法とICT活用について

委員 田中勇次郎
(一般社団法人東京都作業療法士会会長)

この講座は、ATA研修 序 第3章 7節「障害者就労支援の現場から作業療法とICT活用について」です。

講師は、一般社団法人 東京都作業療法士会 会長田中勇次郎 先生です。

委員紹介 田中勇次郎



- 1980年から神経・筋難病患者の作業療法に従事し、作業活動種目の1つとしてコンピュータを活用した会話、ゲーム、グラフィックスなどを指導し、彼らのQOL向上を図った。また、重度障害者用意思伝達装置の開発に関わった。



- 一般社団法人東京都作業療法士会
会長

2

田中勇次郎委員を紹介します。

田中委員は、一般社団法人 東京都作業療法士会の会長です。

1980年から神経・筋難病患者の治療と研究を目的とした専門病院に勤務し、作業療法としてコンピュータを活用したゲームや絵画などを神経・筋難病患者に実施しました。

また、筋萎縮性側索硬化症患者の利用を想定した、眼球運動で操作する重度障害者用意思伝達装置の開発に関わりました。

委員紹介 田中勇次郎



■ 1980年から神経・筋難病患者の作業療法に従事し、作業活動種目の1つとしてコンピュータを活用した会話、ゲーム、グラフィックスなどを指導し、彼らのQOL向上を図った。また、重度障害者用意思伝達装置の開発に関わった。



■ 一般社団法人東京都作業療法士会
会長

3

一般社団法人 東京都作業療法士会 会長の田中です。

私は1980年から神経・筋難病患者にコンピュータを利用した取り組みを作業療法として行ってきました。

この度、プログラム作成委員として参加させて頂く機会がありましたので、自己紹介を兼ねて作業療法士や作業療法について紹介しようと思います。

作業療法士と作業療法について



- 作業療法士はリハビリテーション医療に携わる一職種。
- 対象者に作業活動を通して機能の回復や活動性の向上を図る。
- 作業活動種目の一つにICT活用がある。
- 重度障害者でもICT活用により、就学、就労など社会参加が可能になる。
- 病態動作の活動継続による2次的障害の増長や出現への留意が必要になる。
- 安楽な姿勢と適切な作業時間の設定が重要になる。

作業療法士はリハビリテーション医療に携わる一職種です。医療現場では、精神や身体に障害を持つ対象者に、作業活動を通して機能の回復や活動性の向上を図ります。作業活動に用いる種目は、対象者の精神面、心理面、身体機能面の状態や、興味、関心の度合いなどを評価して選定します。この種目にICTを活用したものも含まれます。ICT活用は、重度な運動機能障害がある方でも社会参加を可能にします。インターネットを介した就学、就労、オンラインゲーム、電子メールによる交流、買い物など、さまざまなことが可能になります。作業療法士が対象とする方の動作は、疾病由来の病態動作であることに留意する必要があります。運動障害を来す病態には、神経筋疾患であれば運動麻痺、運動失調、不随意運動、パーキンソン症状などが挙げられます。これらの病態の対象者の動作は病態動作と表現できます。病態動作による活動の継続は、二次的障害を来す危険性があることも理解する必要があります。医学的リハビリテーションの基本は二次的障害の最大限の予防であり、対象者にとって安楽な作業姿勢や、適切な作業時間の設定が重要です。また、作業後の体のメンテナンスも心がける必要があります。

作業療法士へのICT教育



- ICT活用に関する教科は作業療法士養成校において必須ではない。
- 卒後教育として、（一社）日本作業療法士協会の専門作業療法士（福祉用具）育成カリキュラムとIT機器レンタル事業説明会などで実施している。
- IT機器レンタル事業説明会は研修ではないので、一般の作業療法士がICTに関する研修を受講する機会は乏しい状況にある。
- 重度障害者用意思伝達装置を含め、障害者のICT活用に作業療法士への期待は高い。

ICT活用に関する作業療法士の教育は、生活適応や環境整備関連の教科の中に入れてある養成校もありますが、全ての養成校ではありません。現状では、一般社団法人 日本作業療法士協会の生涯教育制度にある、専門作業療法士(福祉用具)育成カリキュラムの中の一部と、制度対策部福祉用具対策委員会が実施している、IT機器レンタル事業説明会など、卒後教育が中心です。このIT機器レンタル事業説明会は研修という形式ではないので、一般の作業療法士がICTに関する研修を受講する機会は乏しい状況にあります。情報関連技術は作業療法にとって重要な手段です。障害者自立支援法においても、補装具の種目として重度障害者用意思伝達装置が位置付けられているなど、社会的にも作業療法士の活躍が期待されている分野です。

作業療法士へのICT関連研修会



(一社) 東京都作業療法士会福祉用具部主催
IT・コミュニケーション支援機器研修会



講義場面



操作スイッチ工作場面

このスライドは、東京都作業療法士会の福祉用具部が主催したIT・コミュニケーション支援機器研修会の場面です。作業療法士へのICT関連の研修の1つです。講義に加え、操作スイッチ製作の実習も実施しています。

作業療法とICT活用に関する単元



■ 単元2 テクノロジーの理解

- ▶ 4. 福祉機器と支援機器
- ▶ 5. 支援機器を利用する上での注意点
- ▶ 6-1 操作スイッチとマウスクリック操作

■ 単元3 ICTに関する支援技術

- ▶ 5 ICTを活用した実践例
 - 5-1 幼児期・学齢期の支援
 - 5-2 遠隔テレビ会議システムを使用した支援
 - 5-3 eスポーツでの支援

テクノロジーの進歩は目覚ましく、この分野の研修内容は臨機応変に変更できることが必要です。

そのため本事業で取り組むeラーニングは有効な方法であると言えます。また、作業療法士への教育としても活用できるものになると思います。

作業療法とICT活用に関する単元



■ 単元2 テクノロジーの理解

- ▶ 4. 福祉機器と支援機器
- ▶ 5. 支援機器を利用する上での注意点
- ▶ 6-1 操作スイッチとマウスクリック工作

■ 単元3 ICTに関する支援技術

- ▶ 5 ICTを活用した実践例
 - 5-1 幼児期・学齢期の支援
 - 5-2 遠隔テレビ会議システムを使用した支援
 - 5-3 eスポーツでの支援

作業療法とICT活用に関することは、

単元2「テクノロジーの理解」の、第4章「福祉機器と支援機器」、第5章「支援機器を利用する上での注意点」、第6章1節「操作スイッチとマウスクリックの工作」。

単元3「ICTに関する支援技術」の、第5章「ICTを活用した実践例」、第5章1節「幼児期・学齢期の支援」、第5章2節「遠隔テレビ会議システムを使用した支援」、第5章3節「eスポーツの支援」で紹介します。

以上で終了です。

序 3章8節



障害者就労支援の現場から DX時代の障害者の就労支援

委員 西澤利治
(株式会社電脳商会 プロデューサー)

この講座は、ATA研修 序 第3章 8節「障害者就労支援の現場から DX時代の障害者の就労支援」です。

講師は、株式会社電脳商会 プロデューサー 西澤利治 先生です。

委員紹介 西澤利治



- 子供から企業まで、幅広い対象向け教育コンテンツの制作プロデューサー
- 幼児教育番組「ひらけ！ポンキッキ」担当後、電腦商會を創立。35年に渡り教材コンテンツを制作
- 総務省の「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業では、障害のある児童生徒向けプログラミング教育実証事業のプロマネを担当



- 株式会社電腦商會
プロデューサー



2

西澤利治委員を紹介します。

西澤委員は、子供から企業まで幅広い対象向けの教育コンテンツの制作プロデューサーです。

幼児教育番組「ひらけ！ポンキッキ」を担当した後、電腦商會を創立しました。以後、35年に渡って教材コンテンツの制作に携わっています。

総務省の「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業では、障害のある児童生徒向けプログラミング教育の実証事業のプロジェクマネージャーを担当しました。

デジタルトランスフォーメーション



■ デジタルトランスフォーメーション

▶ 略語は「DX」

▶ 「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation) 」

総務省 平成30年版 情報通信白書より引用

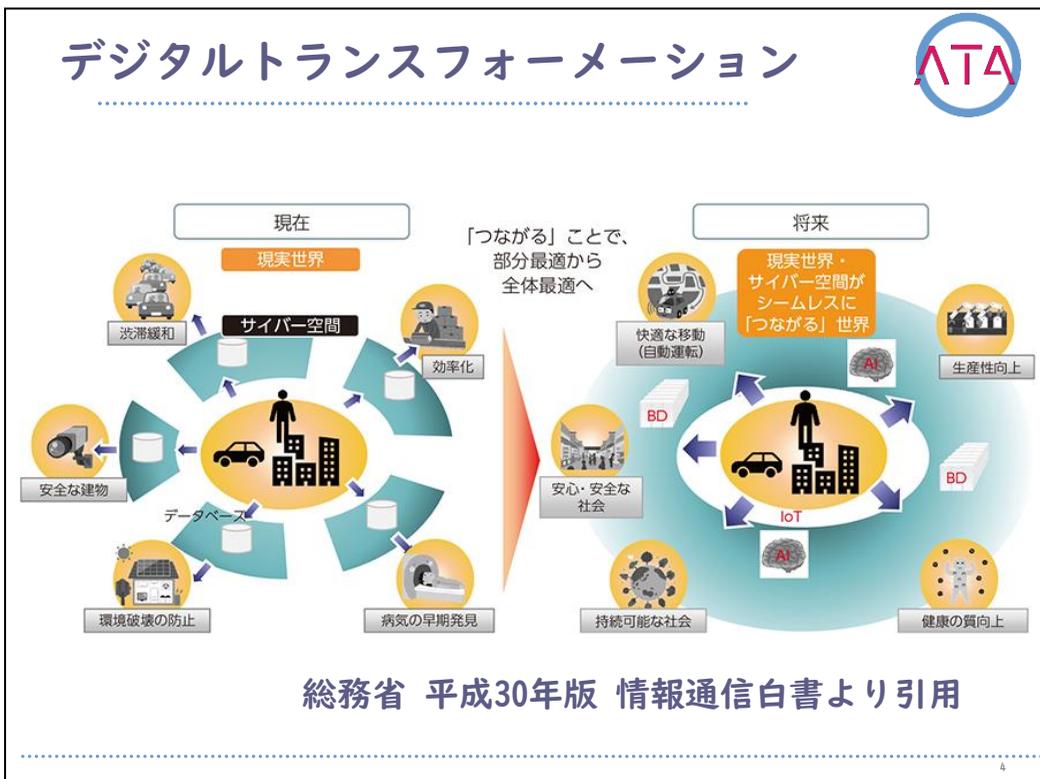
3

皆さんこんにちは。電腦商会の西澤と申します。

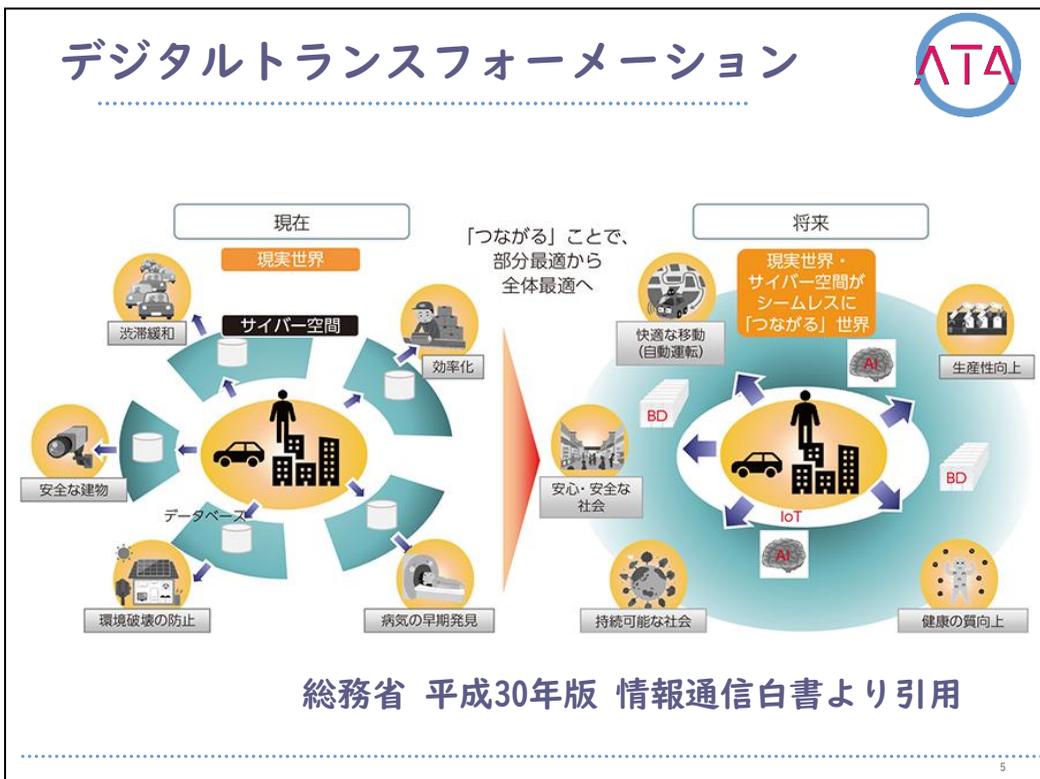
今日はDXと就労の変化について話します。

皆さんはDXという言葉を目にしたことはありますか。

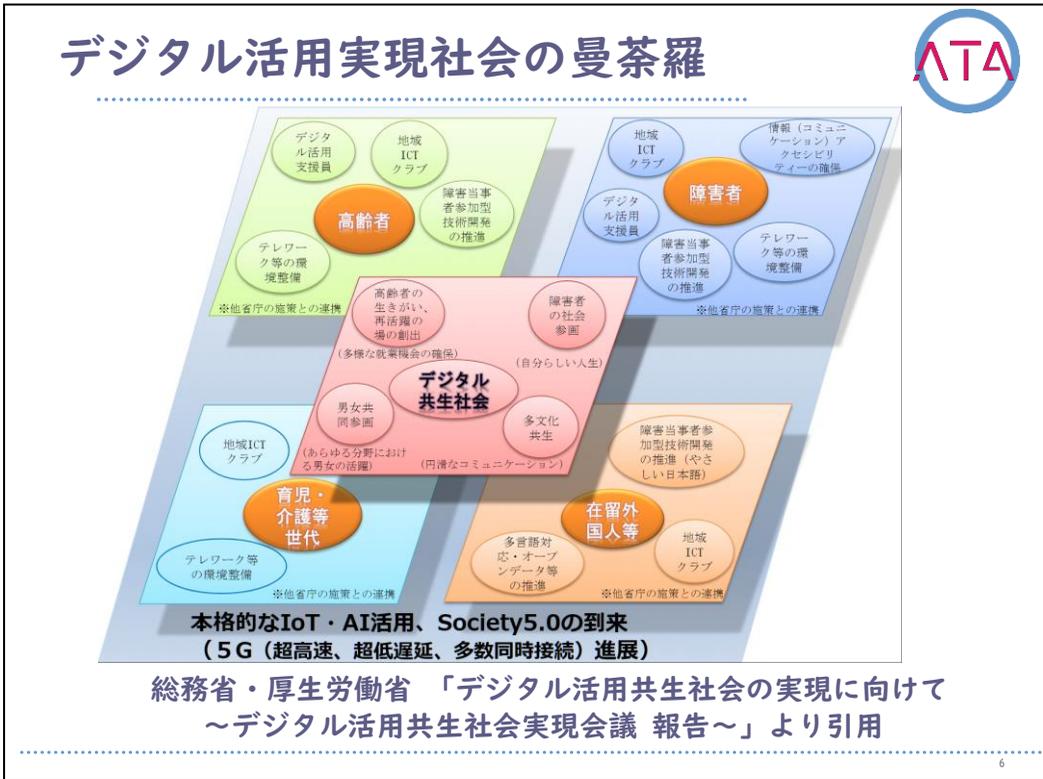
DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略語です。DXの意味は、IT技術が世の中に浸透することによって、人々の生活がデジタル化され、あらゆる面で良い方向へ変化していくもの、とされています。



特にビジネス面では、企業がITのテクノロジーを利用して、これまでになかった新しい分野に挑戦をする、ビジネスの対象にしていなかったことを取り上げていく、という変化として考えられています。つまりDXは、情報技術によって現実世界がネットワークの世界と融合し、インターネットを通じてビジネスのプロセスや働き方が変革されるもの、と考えられています。現在では企業のみならず、国が主導してこのDX化に取り組んでいるところです。

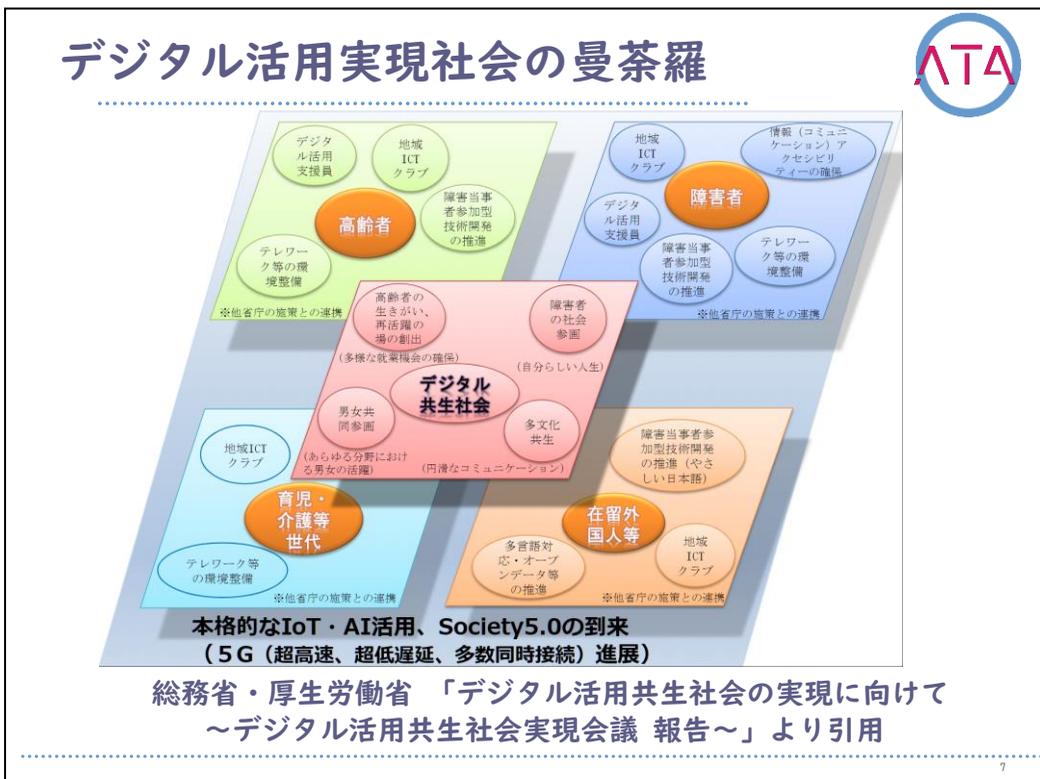


さて、このDX化による変化は、ビジネスのやり方を大きく変えています。ビジネスのプロセスはインターネットに繋がり、モバイルを利用することで場所や時間に制限されない働き方が可能になっています。さらに働き方のスタイルの変化ですが、ネットワークを通じて作業するのであれば場所を選ばないテレワーキング、あるいは固定したオフィスや作業場を持たずに好きな場所で作業するノマドワーキングなど、時間や場所に制限されないこれまでにない働き方、就労形態が実現されるようになっていきます。



こうしたDX化による就労形態の変化は、障害のある方の就労のハードルを下げることに繋がっています。つまり、ネットワークさえあれば、自宅から作業に参加する、あるいは仮想空間の中で他の人と打ち合わせをするということも可能になってきています。このように、DX化の進展は障害を持った方の就労をより幅広く実現することができます。

その半面で、DXでの働き方を支援するためには、障害のある方に対するサポートの方法や、ICT技術を手助けする方法などを適切に指導できる人材が求められています。そうした意味では、障害のある方の就労をICT技術でサポートする専門的な人材の育成が望まれている、ということが言えると思います。



この講座では、アシスティブテクノロジーを活用して、障害のある方の就労を支援する専門家の育成を目的にしています。どうか皆さんもこの講座で学ぶことによって、新しいやり方で障害のある方の就労を支援して頂きますようお願い申し上げます。

以上です。

参考文献



■ 総務省 平成30年版 情報通信白書

▶ <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd102200.html>

■ 総務省・厚生労働省 「デジタル活用共生社会の実現に向けて ～デジタル活用共生社会実現会議 報告～」

▶ https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02ryutsu02_04000334.html

8

参考文献

総務省 平成30年版 情報通信白書

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd102200.html>

総務省・厚生労働省 「デジタル活用共生社会の実現に向けて ～デジタル活用共生社会実現会議 報告～」

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02ryutsu02_04000334.html

序 3章9節



障害者就労支援の現場から テレワーカー育成事業

委員 黒崎 嘉美
(有限会社ケー・アンド・エフ コンピュータサービス
代表取締役)

この講座は、ATA研修 序 第3章 9節「障害者就労支援の現場から テレワーカー育成事業」です。

講師は、有限会社ケー・アンド・エフ コンピュータサービス 代表取締役 黒崎嘉美 先生です。

委員紹介 黒崎 嘉美



- 平成6年創業、博物館展示システムやCDコンテンツの制作からスタート
- システム/アプリ受託開発
- 地方公共団体様向けの大・規模Webサイト構築など実績多数。
- 長野県テレワーカー育成事業の受託会社。



- 有限会社 ケー・アンド・エフ コンピュータサービス
代表取締役

2

黒崎嘉美委員を紹介します。

黒崎委員は、1994年(平成6年)に有限会社 ケー・アンド・エフ コンピュータサービスを創業し、博物館展示システムやCDコンテンツの制作からスタートしました。

システム、アプリ受託開発会社として、地方公共団体向けの大・中規模Webサイト構築など多数の実績があります。

ケー・アンド・エフ コンピュータサービスは長野県テレワーカー育成事業の受託会社です。



※講師映像のみ。スライドなし。



3

皆さんこんにちは。ケー・アンド・エフ コンピュータサービスの黒崎です。

この度は、アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成講座を受講頂きましてありがとうございます。すでにご紹介頂きました通り、この講座は厚生労働省の教育訓練プログラム開発事業の1つとして、一般社団法人日本支援技術協会と、株式会社電脳商会にご協力頂きまして、当社が受託しております。

ご存じの通り、この講座は障害のある方の自立や社会参加、またそれを支援する方のための講座として開講されています。特にICT技術を中心に、支援技術の普及、啓蒙を目指しています。



※講師映像のみ。スライドなし。



4

さて、ここで話を変えて、簡単に弊社の紹介と、なぜ弊社がこの事業にかかわっているかを説明します。

当社は普段はWebコンテンツを作っている会社です。同じくプログラムの受託開発もしています。その中にはこれから皆さんに受講して頂くeラーニングの仕組みの開発や、中身のコンテンツの開発なども含まれています。

また、当社ではあるきっかけから2000年頃にユニバーサルデザインを勉強しはじめ、障害のある方にも利用しやすいホームページの制作を長く手掛けてきました。この講座にも出てきますし、皆さん自身もユニバーサルデザインという言葉は耳にしていると思います。私の個人的な認識では、ユニバーサルデザインという言葉は非常に広い意味を持っていて、大まかに言うと「障害を持つ方も健常者も高齢者も若い方も、すべての方が同じように同じものを使えるようにする」という発想だと思っています。



※講師映像のみ。スライドなし。



5

その考え方をインターネット、もしくはWebの世界に取り入れた考え方が、Webアクセシビリティという考え方です。Webコンテンツにおいても、障害を持つ方も、健常者も、そして若い方、高齢者にも同じように使うことのできるWebサイトを作ることが非常に重要になってきました。今でこそ、ユニバーサルデザインやアクセシビリティという言葉が耳にするようになりましたが、当時2000年頃はそれほど普及しておらず、また情報も少なく、社員一同試行錯誤しながら制作を進めていました。Webの世界ではWebアクセシビリティという言葉が今では良く聞かれるようになり、ホームページ制作の仕様書にその言葉が入ってくるような時代になりました。このような経緯が、アシスティブテクノロジーに近い世界で長く仕事をしてきたという考えに至り、今回我々がこの講座に関わることになった理由でもあります。



※講師映像のみ。スライドなし。



6

少し個人的な話ですが、コンピュータをストレスなく上手に使うということは非常に重要だと常々思っています。特に通常IT業界の人は、目を酷使して仕事をすることが多くあります。私を始め中には視力の低下などで悩んでいる技術者もいます。そしてその人たちの中には、「もしこれで仕事ができなくなったらどうなるか」という悩みも密かにあります。その時に、今回の講座の中にある多様なテクノロジーが、場合によってはセーフティネットになる可能性があるのです。今はサービスの提供側である我々技術者たちも、利用者側になる可能性を考えながら、日々研究開発していくことが重要であると考えています。



※講師映像のみ。スライドなし。



7

少し話は変わりますが、同じような発想から、テレワークにも強い関心をもって進めています。在宅ワーカーの育成や自社の在宅ワーク、外注の仕事やその在宅ワークも試行錯誤を繰り返しています。実際に地方自治体のテレワーカー育成事業に参画したり、社員外部スタッフのテレワークを進めたりして、企業のセーフティネットとして試行錯誤しています。



※講師映像のみ。スライドなし。



8

少し昔の話をさせていただきます。最近ではあまり語られないと思いますが、ユニバーサルデザインが出てきた当初に話題になった話をします。現在WebアクセシビリティはJISで規定されています。その番号は「JIS X 8341」というシリーズになっています。当時我々が最初に受けたセミナーで、実際にこの規定を作られた方の話を聞ける機会がありました。この「8341」という番号は「やさしい」という語呂合わせから付けられた番号だそうです。非常に興味深く、今も記憶に残っています。ホームページ等で調べるとWebアクセシビリティ基盤委員会の説明にも「『JIS X 8341-3:2016』は、高齢者や障害のある人を含むすべての利用者が、使用している端末、Webブラウザ、支援技術などに関係なく、Webコンテンツを利用することができるようにすることを目的としている」と書かれています。



※講師映像のみ。スライドなし。



9

また、そこには「現在ではWebアクセシビリティの品質基準として3つのレベルがあり、レベルA、レベルAA、レベルAAAというものがある」と書かれています。我々業界でも通常指定されることが多いのですが、おおむねレベルAAと指定されることが多くなっています。



※講師映像のみ。スライドなし。



10

また少し技術的な話ですが、昔はHTMLコードを読んでもくれる読み上げソフトがあり、そのソフトで読んでもらった時に思惑通りの発音や順番になるように、コーディングしておりました。現在はCMSを使う、CMSコンテンツ管理システムを使うことが多いのですが、このCMS側に同じような音声の再生機能などの機能が付いています。そういう意味では制作は以前に比べると楽になったと思います。しかし、個々のページにおいては、内容をアクセシブルに作る必要もあり、現在も基本的な作り方は極端には変わっていないように思っています。



※講師映像のみ。スライドなし。



11

皆さん、本講座への参加を改めて頑張って頂ければと思っております。
よろしくお願いいたします。

以上です。

序 第4章



ATアドバイザーの意義と役割
ATアドバイザー育成研修について

事務局

この講義は、ATA研修 序 第4章「ATアドバイザーの意義と役割 ATアドバイザー育成研修について」です。

この章のねらい



- 単元の中でのこの章の位置付け
 - ▶ アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修の学習方法を学ぶ

- 学習のゴール
 - ▶ ATアドバイザー育成研修の学習方法を理解する

2

この章のねらいは、
ATアドバイザー育成研修の学習方法を学ぶこと、
です。

学習のゴールは、
ATアドバイザー育成研修の学習方法を理解すること、
です。

この章のねらい



■ 本研修の目的

- ・ 「区分 医療・福祉」分野における教育訓練プログラム
- ・ 医療、介護、教育、就労の分野において、合理的配慮の提供とサービスの質を向上させるためには情報支援技術のスキルを持った人材が必要

3

本研修の目的です。

本研修は、「区分 医療・福祉」分野における教育訓練プログラムです。

障害のある人を対象にした医療、介護、教育、就労のサービスを提供する上で、必須となっているのがICT機器の利活用です。

医療においてはコミュニケーションの手段を獲得する「リハビリテーション機器」として、

介護においては生活のQOLを高める「福祉機器」として、

教育においては個別の学びをサポートする「学習機器」として、

就労においては自身をエンパワーメントする「セルフサポート機器」として、

ICT機器は必要不可欠です。

この4つの分野において、合理的配慮の提供とサービスの質を向上させるためには、情報支援技術のスキルを持った人材が必要です。

目次



1. はじめに
2. ATAの知識体系について
3. ATAのカリキュラムについて
4. 学習手法

目次

1. はじめに

1. はじめに



■ アシスティブテクノロジー・アドバイザー について

障害のある人のICT利活用を安全かつ適切に広げるには、障害そのものの理解、社会的な状況の把握、支援の法的根拠の理解、一般的なICTに関する情報、支援技術に関する情報や適合技術が必要

本事業では、一定の知識と技術を持ちICT技術を活用した障害者の就労を支援するスキルを有する専門人材をアシスティブテクノロジー・アドバイザー（ATA）と名付け、その育成を行う

5

障害のある人のICT利活用を安全かつ適切に広げるには、障害そのものの理解、社会的な状況の把握、支援の法的根拠の理解、一般的なICTに関する情報、支援技術に関する情報や適合技術が必要です。

そこで本事業では、一定の知識と技術を持ちICT技術を活用した障害者の就労を支援するスキルを有する専門的な人材を「アシスティブテクノロジー・アドバイザー(ATA)」と名付け、その育成を行います。

目次



1. はじめに
2. ATAの知識体系について
3. ATAのカリキュラムについて
4. 学習手法

目次

2. ATAの知識体系について

2. ATAの知識体系について



- 本研修では、ATAで求められている技術・知識を、5つの領域に分けて整理した

第1領域	障害の理解
第2領域	テクノロジーの理解
第3領域	ICTに関する支援技術
第4領域	困難別の支援技術
第5領域	場面別の支援技術

7

本研修では、ATAで求められている技術・知識を、5つの領域に分けて整理しています。

- 第1領域 障害の理解
 - 第2領域 テクノロジーの理解
 - 第3領域 ICTに関する支援技術
 - 第4領域 困難別の支援技術
 - 第5領域 場面別の支援技術
- です。

目次



1. はじめに
2. ATAの知識体系について
3. ATAのカリキュラムについて
4. 学習手法

目次

3. ATAのカリキュラムについて

3. ATAのカリキュラムについて



- 本研修では、5領域の技術、知識、手法等を習得することを目的に、以下の構成でカリキュラムを設計した

第1領域 「障害の理解」

- ① 障害観の変化
- ② 社会の変化
- ③ 障害の種類
- ④ 法令・制度

9

本研修は、5つの領域の技術、知識、手法等を習得することを目的にしています。

カリキュラムは、以下のように設計されています。

第1領域 「障害の理解」

- ① 障害観の変化
- ② 社会の変化
- ③ 障害の種類
- ④ 法令・制度

3. ATAのカリキュラムについて



第2領域 「テクノロジーの理解」

- ①テクノロジーと人間
- ②アクセシビリティ
- ③福祉機器と支援機器
- ④支援機器を利用する上での注意点
- ⑤機器の工夫・工作

第3領域 「ICTに関する支援技術」

- ①一般的なICT機器の支援への利活用
- ②OS標準のアクセシビリティ機能
- ③福祉機器として開発された情報支援技術
- ④ICTを活用した実践例
- ⑤Webアクセシビリティ

10

第2領域「テクノロジーの理解」

- ① テクノロジーと人間
- ② アクセシビリティ
- ③ 福祉機器と支援機器
- ④ 支援機器を利用する上での注意点
- ⑤ 機器の工夫・工作

第3領域「ICTに関する支援技術」

- ① 一般的なICT機器の支援への利活用
- ② OS標準のアクセシビリティ機能
- ③ 福祉機器として開発された情報支援技術
- ④ ICTを活用した実践例
- ⑤ Webアクセシビリティ

3. ATAのカリキュラムについて



第4領域 「困難別の支援技術」

- ① 見ること
- ② 聞くこと
- ③ コミュニケーション
- ④ 動くこと(肢体不自由)
- ⑤ 病弱
- ⑥ 読み書き
- ⑦ 重複障害

第5領域 「場面別の支援技術」

- ① 学習場面での支援技術
- ② 就労場面での支援技術
- ③ 日常生活場面での支援技術

11

第4領域「困難別の支援技術」

- ① 見ること
- ② 聞くこと
- ③ コミュニケーション
- ④ 動くこと(肢体不自由)
- ⑤ 病弱
- ⑥ 読み書き
- ⑦ 重複障害

第5領域「場面別の支援技術」

- ① 学習場面での支援技術
- ② 就労場面での支援技術
- ③ 日常生活場面での支援技術

目次



1. はじめに
2. ATAの知識体系について
3. ATAのカリキュラムについて
4. 学習手法

目次

4. 学習手法



4. 学習手法

■ 構成

eラーニング(動画・字幕)
配布用テキスト(PDF)
理解度テスト
オンラインディスカッション
オンラインコミュニティ
対面研修
実習

13

教材は、eラーニング(動画・字幕)、配布用テキスト(PDF)、理解度テスト、オンラインディスカッション、オンラインコミュニティ、対面研修、実習で構成されています。

また、単なる知識の習得で終わらないように、アシスティブテクノロジーについて理論と実践を学べるように設計されています。

具体的には、遠隔講義による「eラーニング」の他、講師や他の受講者と交流できる「オンラインコミュニティ」、与えられたテーマについて意見交換を行う「オンラインディスカッション」、実際の福祉機器を操作することで知識を体験的に学ぶ4日間の「対面研修」、福祉関連の施設やイベントを取材して最新の動向を調査する「実習」を設けています。



4. 学習手法

- eラーニングの使い方
- コミュニティサイトの使い方
- 理解度テストの使い方
- 対面研修について
- 実習について

14

これより先、詳しい学習方法を学びます。

eラーニングの使い方
コミュニティサイトの使い方
理解度テストの使い方
対面研修について
実習について
です。

以上です。

序 4章1



ATアドバイザー育成研修について

eラーニングの使い方

事務局

この講座は、ATA研修 序 第4章 1節「ATアドバイザー育成研修について eラーニングの使い方」です。

この章のねらい



- eラーニング(遠隔講義)の特長と使い方を理解する
- 学習目標
 - ▶ eラーニング(遠隔講義)を使った学習方法を理解する
 - ▶ eラーニング(遠隔講義)の機能が使えるようになる。
- まとめ
 - ▶ eラーニング(遠隔講義)の機能を使いこなし、自分に適した学習を実践する。

2

この章のねらいは、
eラーニング(遠隔講義)の特長と使い方を理解すること、
です。

学習目標は、
eラーニングを使った学習方法を理解すること、
eラーニングの機能が使えるようになること、
です。

まとめです。
eラーニングの機能を使いこなして、自分に適した学習を実践しましよ
う。

目次



1. はじめに
2. アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修受講の留意事項について
3. 受講者用の入口について
4. eラーニングの操作について
5. 相談窓口（ヘルプデスク等）
6. まとめ

※：アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修をATA育成研修と記述する場合あり

目次

1. はじめに

1. はじめに



■ この章を学習するにあたってのポイント

本研修はeラーニングと対面研修との組み合わせにより進行する。

この章では中核となる学習管理システムとeラーニング教材との操作方法を解説。教材は、最小限の操作、かつノン・マニュアルでも利用できるよう工夫されている。

基本的な操作説明を行う事でストレスなく、講座理解に注力するための解説をする。

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

本研修はeラーニングと対面研修との組み合わせにより進められます。

この章では中核となる学習管理システムとeラーニング教材の操作方法を説明します。

教材は、構成自体をシンプルにすることで、マニュアルがなくても最小限の操作で利用できるよう工夫しています。

ストレスなく、講座の理解に注力するため、基本的な操作の説明を行います。

2. ATA育成研修受講の留意事項について

■ 学習目標

- ▶ 各種留意事項についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 著作権・著作権等へ一般的な理解
- ▶ 本研修において、許可されている事と、されない事の理解

5

ATA育成研修受講の留意事項について

学習目標は、
各種留意事項についての知識を得ること、
です。

学習のゴールは、
著作権・著作権等への一般的な理解と、本研修において、許可されていることと、されていないことの理解をすること、
です。

3. eラーニングを受講する



6

受講者用の入口について

「障害者の自立と就労を支援する情報支援技術コーディネーターの育成」事業サイトのトップページから、コミュニティサイトへログインします。

3. eラーニングを受講する



ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成支援事業

ユーザー名

パスワード

ユーザー名を記憶する

ログイン

あなたのユーザー名またはパスワードを忘れましたか?

ブラウザのクッキー設定を有効にしてください。 ⓘ

いくつかのコースにはゲストアクセスできます

ゲストとしてログインする

7

ログイン画面が表示されます。

ユーザー名、パスワードを入力して「ログイン」をクリックします。

3. eラーニングを受講する



事業サイトへ

- Home
- ダッシュボード
- カレンダー
- プライベートファイル
- マイコース
- 概要
- 単元1 障害の理解
- 単元2 技術の理解
- 単元3 ICT支援技術
- 単元4 困難別の支援技術
- 単元5 場面別の支援技術
- 対面研修
- 実習
- 総括

ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成支援事業

サイトアナウンスメント

このフォーラムの議論を削除する

本研修での教材について
2020年02月17日(月曜日) 09:15 - システム 管理者 の投稿

本研修の教材で紹介されている商品名・製品名はそれぞれの会社の登録商標を使用していることがあります。本研修の教材で紹介されている商品名や製品名は事業者の許可なく、複製したリインターネットに公開する事はできません。本研修の教材を事業者に無断で転用して有償で転送したり、頒布する事はできません。

このトピックを読む (現在の返信数: 0)

コース一覧

- 序 概要
- 単元1 障害の理解
- 単元2 技術の理解
- 単元3 ICT支援技術
- 単元4 困難別の支援技術
- 単元5 場面別の支援技術
- 対面研修
- 実習
- 総括

あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト)

ATA
アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成支援事業

8

コミュニティサイトのトップページより、コース一覧から受講したいコースを選択します。

コース名をクリックすると講義一覧画面に移ります。

4-1. eラーニングの構成



ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修 日本語 (ja) サンプル受講者

事業サイトへ

- 場面別の支援技術
- 参加者
- 評価
- 一般
- 5-1 この単位について、著者の挨拶等
- 5-2 学習場面での支援技術
- 5-3 就労場面での支援技術
- 5-4 日常生活場面での支援技術
- 5-5 この単元のまとめ(振り返り、参考文献)
- 単元5 オンラインディスカッション

Home

ダッシュボード

カレンダー

単元5 場面別の支援技術

Home / マイコース / 場面別の支援技術

あなたの進捗

アナウンスメント

5-1 この単位について、著者の挨拶等

- 著者の挨拶
- 著者の挨拶

5-2 学習場面での支援技術

- 講義
- 講義資料
- 章の理解度テスト

5-3 就労場面での支援技術

- 講義

9

eラーニングの操作について

講義一覧のeラーニングアイコンの付いた項目をクリックします。

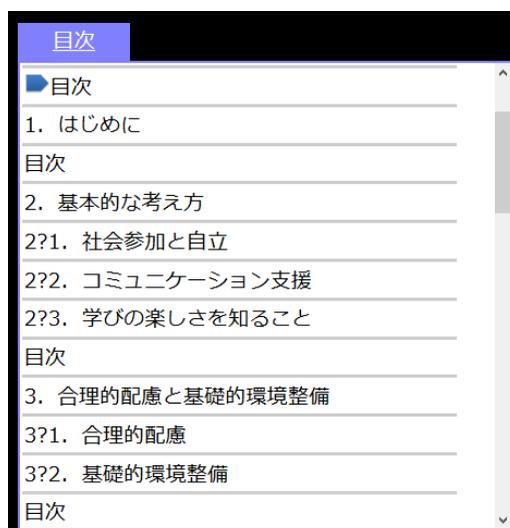
4-1. eラーニングの構成

The diagram illustrates the components of an e-learning interface. It features a central slide area labeled 'スライド' (Slide) showing a presentation slide titled '場面別の支援技術 学習場面での支援技術' (Support techniques for different scenes: Support techniques in learning scenes) by 金森克浩 (Professor at Nippon Fukushi University). To the left is a 'プレーヤー' (Player) control panel with a video player and a '目次' (Table of Contents) sidebar. Below the slide is a '解説' (Explanation) area containing text about the content being from an ATA training course. The ATA logo is visible in the top right corner of the slide area.

eラーニング画面が表示されます。

eラーニング画面は、プレーヤー、目次、スライド、解説のエリアで構成されています。

4-1. eラーニングの構成

A screenshot of a digital table of contents interface. The title '目次' (Table of Contents) is highlighted in a blue bar at the top. Below it, a list of items is shown, each with a small blue arrow icon to its left. The items are: '目次', '1. はじめに', '目次', '2. 基本的な考え方', '2?1. 社会参加と自立', '2?2. コミュニケーション支援', '2?3. 学びの楽しさを知ること', '目次', '3. 合理的配慮と基礎的環境整備', '3?1. 合理的配慮', '3?2. 基礎的環境整備', and '目次'. A vertical scrollbar is visible on the right side of the list.

目次

目次が表示されます。

目次の項目をクリックすると、その項目にジャンプします。

4-1. eラーニングの構成



この章のねらい



- 学習目標
 - ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る
- 学習のゴール
 - ▶ 合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになる
 - ▶ さまざまな学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

3

12

スライド

スライドが表示されます。

4-1. eラーニングの構成

A screenshot of a video player interface. The video content shows a text box with a yellow highlight over the phrase "他の子どもと平等に「教育を受ける権利」". The text box is surrounded by a black border. Above the text box, there are four small red icons: a plus sign, a minus sign, a refresh symbol, and a download symbol. The text in the box reads: "合理的配慮とは障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子".

合理的配慮とは障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子

13

解説

解説が表示されます。

動画に合わせて文字にハイライトが付きます。

4-2. 講義映像の操作



プレーヤー

プレーヤーで動画が再生されます。

再生、一時停止、ミュート、ボリューム調整、経過時間表示、シークバー、再生速度、解説表示設定、フルスクリーン切り替えの操作機能があります。

4-3. キーボード操作



■ 基本機能

- ▶ 「K」 キー：コンテンツの再生・一時停止
- ▶ 「J」 キー：再生時間を10秒戻す
- ▶ 「I」 キー：再生時間を10秒進める
- ▶ 「PageUp」 キー/ 「W」 キー：
目次を一つ戻す
(先頭の目次再生時は無効)
- ▶ 「PageDown」 キー/ 「S」 キー：
目次を一つ進める
(最終の目次再生時は無効)

15

キーボード操作

eラーニング画面ではキーボードで操作できる機能があります。
基本機能を紹介します。

「K」 キー：コンテンツの再生・一時停止をします

「J」 キー：再生時間を10秒戻します

「I」 キー：再生時間を10秒進めます

「PageUp」 キー/ 「W」 キー：目次を1つ戻します

「PageDown」 キー/ 「S」 キー：目次を1つ進めます

4-3. キーボード操作



- その他、以下のキー操作も可能とする
 - ▶ 「Space」キー：フォーカス位置のボタンを操作する（動画プレイヤーのみ）
 - ▶ 「←」キー：シークバー上にフォーカスがある場合、再生時間を5秒戻す
 - ▶ 「→」キー：シークバー上にフォーカスがある場合、再生時間を5秒進める
 - ▶ 「0」キー：再生時間を0秒に戻す（スタート位置へ戻す）
 - ▶ 「1」～「9」キー：10%～90%の位置へ再生箇所を移動する

16

その他、以下のキー操作も可能です。

「Space」キー：フォーカス位置のボタンを操作します

「左」キー：シークバー上にフォーカスがある場合、再生時間を5秒戻します

「右」キー：シークバー上にフォーカスがある場合、再生時間を5秒進めます

「0」キー：再生時間を0秒に戻します

「1」～「9」キー：10%～90%の位置へ再生箇所を移動します

4-4. eラーニングの終了



17

eラーニングの終了

ブラウザの「戻る」でeラーニングを終了し、講義一覧画面に戻ります。

以上です。

4-3. キーボード操作



- ▶ 「<」キー：再生速度を一段階戻す（x1.0で押下された場合x2.0へループする）
- ▶ 「>」キー：再生速度を一段階進める（x2.0で押下された場合x1.0へループする）
- ▶ 「M」キー：音量をミュートにする/ミュートを解除する

18

「<」キー：再生速度を一段階戻します

「>」キー：再生速度を一段階進めます

※再生速度は1倍、1.2倍、1.5倍、2.0倍の4種類あります。

「M」キー：音量をミュートにする/ミュートを解除する というミュート設定があります。

留意事項です。

すべてのOS、ブラウザ、キーボードで動作が保証されるものではありません。

本仕様は概要であり、実現段階では対応方法などが変更する場合があります。

序 第4章2



ATアドバイザー育成研修について
コミュニティサイトの使い方

事務局

この講座は、ATA研修 序 第4章 2節「ATアドバイザー育成研修について コミュニティサイトの使い方」です。

この章のねらい



- 本研修のコミュニティサイトの使い方を理解する
- 学習目標
 - ▶ 研修の留意事項を理解する
 - ▶ コミュニティサイトの使い方について学ぶ
- 学習のゴール
 - ▶ 本研修の提供の仕組みであるコミュニティサイト(システム)の使い方を理解した上で機能を活用して学習を円滑に進める事が出来るようになる

2

この章のねらいは、
本研修のコミュニティサイトの使い方を理解すること、
です。

学習目標は、
研修の留意事項を理解すること、
コミュニティサイトの使い方について学ぶこと、
です。

学習のゴールは、
本研修の提供の仕組みであるコミュニティサイト(システム)の使い方を理解した上で、機能を活用して学習を円滑に進めることができるようになること、
です。

目次



1. はじめに
2. アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修受講の留意事項について
3. 受講者用の入口について
4. コミュニティサイトの操作について
5. 相談窓口(ヘルプデスク等)
6. まとめ

※：アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修をATA育成研修と記述する場合があります。

目次

1. はじめに

1. はじめに



■ この章を学習するにあたってのポイント

本研修はeラーニングと対面研修との組み合わせにより進行する

この章では中核となる学習管理システムとeラーニング教材との操作方法を解説

教材は最小限の操作、かつノン・マニュアルでも利用できるよう工夫されている

ストレスなく講座理解に注力できるよう、基本的な操作説明を行う

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

本研修はeラーニングと対面研修との組み合わせにより進められます。

この章では中核となる学習管理システムとeラーニング教材の操作方法を説明します。

教材は、構成自体をシンプルにすることで、マニュアルがなくても最小限の操作で利用できるよう工夫しています。

ストレスなく、講座の理解に注力するため、基本的な操作の説明を行います。

2. ATA育成研修受講の留意事項について



■ 学習目標

- ▶ 各種留意事項についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 著作権・著作権等へ一般的な理解
- ▶ 本研修において、許可されている事と、されない事の理解

5

ATA育成研修受講の留意事項についてです。

学習目標は、
各種留意事項についての知識を得ること、
です。

学習のゴールは、
著作権・著作権等への一般的な理解と、本研修において、許可されていることと、されないことの理解、
です。

3. 受講者用の入口について



6

受講者用の入口について

「障害者の自立と就労を支援する情報支援技術コーディネーターの育成」事業サイトのトップページから、コミュニティサイトへログインします。

3. 受講者用の入口について



ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成支援事業

ユーザー名

パスワード

ユーザー名を記憶する

ログイン

あなたのユーザー名またはパスワードを忘れましたか?

ブラウザのクッキー設定を有効にしてください。

いくつかのコースにはゲストアクセスできます

ゲストとしてログインする

7

ログイン画面が表示されます。

ユーザー名、パスワードを入力して「ログイン」をクリックします。

4. コミュニティサイトの操作について



■ ホーム画面



8

コミュニティサイトの操作について

コミュニティサイトにログインすると、ホーム画面が表示されます。

4. コミュニティサイトの操作について



■ ヘッダー



9

ヘッダー

ヘッダーにはコミュニティサイト共通の機能があります。

メニューボタンをクリックすると、ホーム、ダッシュボード、カレンダー、マイコースのメニューが表示されます。

「アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修」をクリックすると、ホーム画面に戻ります。

「日本語(ja)」をクリックすると言語が切り替わります。

通知ボタンをクリックすると、あなたへの通知が表示されます。

「すべてを表示する」をクリックすると通知一覧が表示されます。

メッセージボタンをクリックすると、メッセージドロワが表示されます。

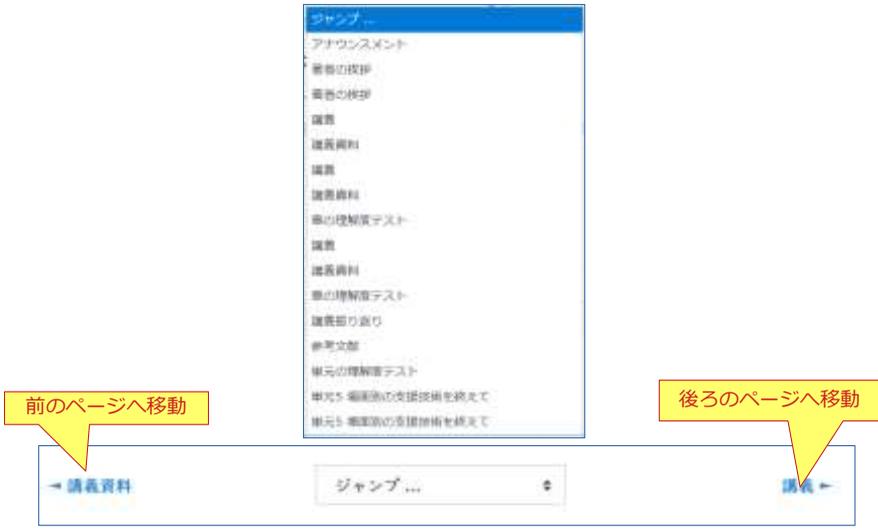
「すべてを表示する」をクリックするとメッセージ一覧が表示されます。

受講者の名前をクリックすると、ダッシュボード、プロフィール、設定、メッセージ、プリファレンス、ログアウトのメニューが表示されます。

4. コミュニティサイトの操作について



■ ページ移動



10

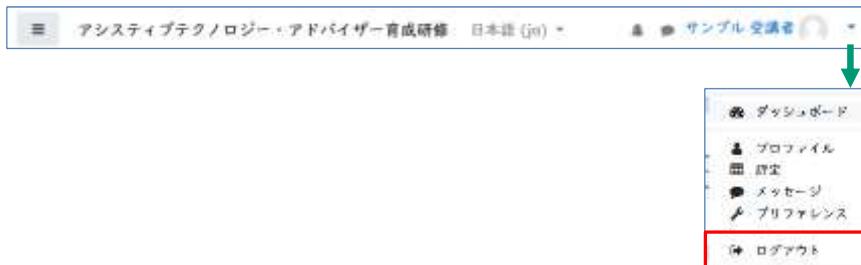
ページ移動

前、あるいは後ろのページ移動をクリックするか、プルダウンでジャンプ先のページを選択します。

4. コミュニティサイトの操作について



■ ログアウト



ログアウト

コミュニティサイトにログインすると、ホーム画面が表示されます。

4-1. ダッシュボード



12

ダッシュボード

ダッシュボードでは、最近アクセスされたコース、コース概要、タイムライン、プライベートファイル、オンラインユーザ、カレンダー、直近イベントの管理ができます。

4-1. ダッシュボード



■ コース概要



13

コース概要

表示するコースは、すべて、進行状況、星付き、表示から削除済みから選択します。

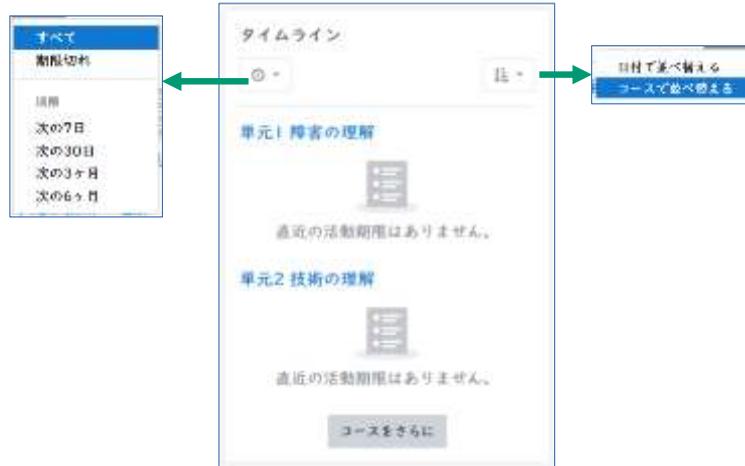
コースの並び順は、コース名、最終アクセスから選択します。

コースの表示形式は、カード、リスト、概要から選択します。



4-1. ダッシュボード

■ タイムライン



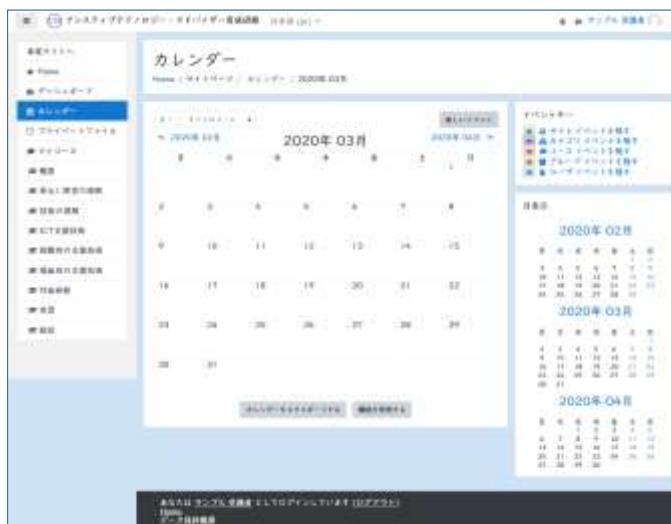
14

タイムライン
活動の記録が表示されます。



4-1. ダッシュボード

■ カレンダー



15

カレンダー

カレンダーでイベントの予定を管理することができます。



4-1. ダッシュボード

■ カレンダー

新しいイベント

イベントタイトル

日時

イベントタイプ

場所

ロケーション

期間

このイベントを繰り返す

メールが付けられたフィールドは必須入力フィールドです。

保存

16

カレンダーに新しいイベントを入力します。



4-1. ダッシュボード

■ プライベートファイル



17

プライベートファイル

サイトにファイルをアップロードします。

4-3. メッセージ一覧画面



19

メッセージ一覧画面

他の受講者やグループとのメッセージを管理します。

4-4. プロファイル



20

プロフィール

プロフィールでは、あなたのユーザ情報を確認、編集することができます。

4-5. 評価



このスクリーンショットは、アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修のシステム上のユーザープロフィールページを示しています。ユーザー名は「サンプル 受講者」です。左側のメニューには「ホーム」、「ダッシュボード」、「プロフィール」、「マイコース」などの項目があります。中央には「私が受講しているコース」のセクションがあり、以下の表が表示されています。

コース名	評価
基礎	--
単元1 障害の理解	--
単元2 障害の理解	--
単元3 ICT支援技術	3.33
単元4 情報処理の支援技術	--
単元5 障害者の支援技術	--
授業評価	--
実習	--
研修	--

画面下部には「あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト)」というメッセージと「ホーム」のリンクが確認できます。

21

評価

評価では、受験した理解度テストの評価を確認することができます。

4-6. プリファレンス

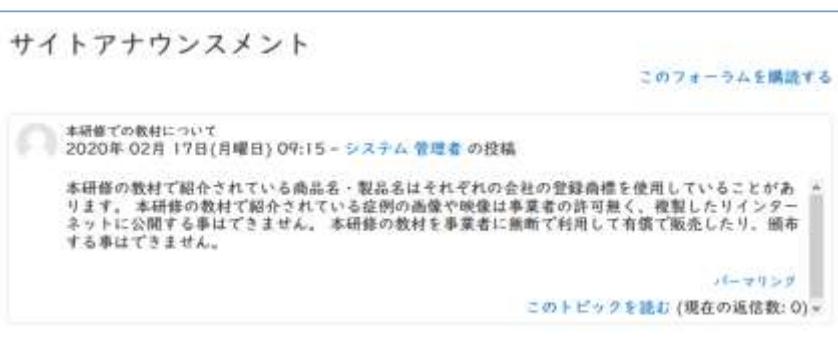


22

プリファレンス

プリファレンスでは、あなたのユーザ情報のほか、システムの環境設定を確認、編集することができます。

4-7. サイトアナウンスメント



23

サイトアナウンスメント

サイトアナウンスメントは、サイト全体に対してのアナウンスメントを表示します。

「このフォーラムを購読する」をクリックすると、サイトアナウンスメントに投稿があった際に通知が届きます。

「このトピックを読む」をクリックすると、トピックの詳細ページに移ります。

4-7. サイトアナウンスメント



■ トピックの詳細



24

トピックの詳細

アナウンスメントの各トピックの詳細ページです。

返信の表示形式を、古いものからフラット表示、新しいものからフラット表示、スレッド表示、ネスト表示から選択することができます。設定をクリックすると、このディスカッションに星を付けたり、購読設定、購読解除ができます。



4-7. サイトアナウンスメント

■ ディスカッション一覧



25

ディスカッション一覧

ディスカッションの一覧画面です。

4-8. コース



■ コース一覧

コース一覧
▷ 序 概要
▷ 単元1 障害の理解
▷ 単元2 技術の理解
▷ 単元3 ICT支援技術
▷ 単元4 困難別の支援技術
▷ 単元5 場面別の支援技術
▷ 対面研修
▷ 実習
▷ 総括

26

コース一覧

コースは受講できるコースの一覧が表示されます。

受講したコース名をクリックすると、コース内容(講義一覧)画面に移ります。

4-8. コース



■ コース内容

講座名	所要時間
0-1 この講座について、基礎的知識	00:00
0-2 学習環境での支援技術	00:00
0-3 視覚障害での支援技術	00:00
0-4 聴覚・身体障害での支援技術	00:00
0-5 この講座のまとめ(振り返り、参考文献)	00:00
総計	00:00

コース内容

コース内容(講義一覧)画面です。



4-8. コース

■ コースの構成

1. 講義(eラーニング)を受講する
2. 章の理解度テストを受験する
(全問正解必須)
- ↓
3. 単元理解度テストを受験する
(正解率80%以上必須)
- ↓
4. 単元終了
5. オンラインディスカッション

28

それぞれのコースは、

1. 講義(eラーニング)を受講する
2. 章の理解度テストを受験する
3. すべての章の理解度テストを正解したら、単元の理解度テストを受験する
4. 単元の理解度テストの正解率80%以上で単元終了
5. オンラインディスカッションに参加する

という流れで進みます。

4-8. コース

■ コース内容

あなたの選択

アナウンスメント

eラーニング

2 学習場面での支援技術

- 講義
- 資料** 講義資料
- 章の理解度テスト

理解度テスト

単元5 オンラインディスカッション

単元5 場面別の支援技術を経て

ディスカッション

単元5を修了して身の回りの生活で障害を抱えた場合、どのような困難がありましたか？
 さんが想像した困難についてお話してみてください。

29

コース内容

アナウンスメントに、コースごとのアナウンスメントが表示されます。

「eラーニング」をクリックすると、eラーニングが開始されます。

「資料」をクリックするとPDFファイルが開きます。

「理解度テスト」をクリックすると、理解度テストが開始されます。

「ディスカッション」をクリックすると、単元終了した受講者のディスカッションに参加できます。

4-9. オンラインディスカッション



30

オンラインディスカッション

オンラインディスカッションは、全単元を終了するとオンラインディスカッションに参加できます。

4-9. オンラインディスカッション



■ 返信を古いものからフラット表示



31

「トピック」をクリックすると、トピックの詳細画面に移ります。

返信の表示方法を変更できます。

画面は返信を古いものからフラット表示した状態です。

4-9. オンラインディスカッション



■ 返信を新しいものからフラット表示



32

画面は返信を新しいものからフラット表示した状態です。

4-9. オンラインディスカッション



■ 返信をスレッド表示



33

画面は返信をスレッド表示した状態です。

4-9. オンラインディスカッション



■ 返信をネスト表示



34

画面は返信をネスト表示した状態です。

4-9. オンラインディスカッション



■ 投稿に返信



35

投稿に対して返信することができます。

「返信」をクリックすると、返信の入力欄が表示されます。

「高度」をクリックすると、高度な入力欄が表示されます。

4-9. オンラインディスカッション



■ トピックの新規作成



36

「新しいディスカッショントピックを追加する」をクリックすると、新しいトピックの入力欄が表示されます。

4-9. オンラインディスカッション



■ 高度な入力



37

新規トピック、返信などディスカッションの入力では、書式の設定や、ファイルを添付するなど、高度な入力ができます。

以上です。

序 第4章3



ATアドバイザー育成研修について

理解度テストの使い方

事務局

この講座は、ATA研修 序 第4章 3節「ATアドバイザー育成研修について 理解度テストの使い方」です。



この章のねらい

- 理解度テストの意義と操作を理解する
- 学習目標
 - ▶ 理解度テストの使用方法について学ぶ
 - ▶ 理解度テストで学習状況を評価する方法について学ぶ
- 学習のゴール
 - ▶ 理解度テストによって自己の学習状況を把握し、理解度が評価できるようになる
 - ▶ 理解度テストによって学習の進め方がマネジメントできるようになる

2

この章のねらいは、
理解度テストの意義と操作を理解すること、
です。

学習目標は、
理解度テストの使用方法について学ぶこと、
理解度テストで学習状況を評価する方法について学ぶこと、
です。

学習のゴールは、
理解度テストによって自己の学習状況を把握し、理解度が評価できる
ようになること、
理解度テストによって学習の進め方がマネジメントできるようになる
こと、
です。

目次



1. はじめに
2. 理解度テストの意義
3. 理解度テストの構造
4. 理解度テストの操作
5. 理解度テストによる評価
6. まとめ

※アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修をATA育成研修と記述する場合があります。

目次

1. はじめに



1. はじめに

■ この章を学習するにあたってのポイント

本研修はeラーニングと対面研修との組み合わせにより進行する

この章では中核となる学習管理システムとeラーニング教材との操作方法を解説

教材は、最小限の操作、かつノン・マニュアルでも利用できるよう工夫されている

ストレスなく講座理解に注力できるよう、基本的な操作説明を行う

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

本研修はeラーニングと対面研修との組み合わせにより進められます。

この章では中核となる学習管理システムとeラーニング教材の操作方法を説明します。

教材は、構成自体をシンプルにすることで、マニュアルがなくても最小限の操作で利用できるよう工夫しています。

ストレスなく、講座の理解に注力するため、基本的な操作の説明を行います。

2. 理解度テストの意義



■ 理解度テストの目的

- ・ 学習者が自己の学習状況を確認するため
理解度テストの成績で講座が評価される

■ 理解度テストの形式

- ・ 章と単元の2種類の理解度テストが用意されている
- ・ いずれも多肢選択形式で3択問題3問で構成
- ・ 出題内容は、講義の内容から
- ・ 受験前に講義を受講しておくこと

5

理解度テストの意義

この研修のeラーニング教材には、学習者が自己の学習状況を確認するために、2種類の理解度テストが用意されています。

いずれも多肢選択形式で、3問の3択問題で構成されています。

どちらも講義の内容から出題されますので、先に講義を受講しておくことをお勧めします。

理解度テストの成績によって、講座の成績が評価されます。

2. 理解度テストの意義



■ 章の理解度テスト

- ・ 原則として各章ごとに用意
- ・ 制限時間10分で、2回繰り返し受験できる

■ 単元の理解度テスト

- ・ 各單元ごとに用意
- ・ 制限時間は20分で、3回受験できる

6

章の理解度テストは、原則として各章ごとに用意されています。
制限時間は10分で、2回繰り返し受験することができます。

単元の理解度テストは、單元ごとに用意されています。
制限時間は20分で、3回受験することができます。

3. 理解度の構造



■ 章の理解度テスト

■ 単元の理解度テスト



それぞれのコースは、

1. 講義(eラーニング)を受講する
2. 章の理解度テストを受験する
3. すべての章の理解度テストを正解したら、単元の理解度テストを受験する
4. 単元の理解度テストの正解率80%以上で単元終了
5. オンラインディスカッションに参加する

という流れで進みます。

ここでは「章の理解度テスト」、「単元の理解度テスト」について説明します。

4-1. 理解度テストの開始



The screenshot displays the ATA learning management system interface. At the top, there is a navigation bar with the ATA logo, the course name 'アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修', the language '日本語 (ja)', and the user name 'サンプル 受講者'. Below the navigation bar, the breadcrumb trail reads 'Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-3 就労場面での支援技術 / 章の理解度テスト'. The main content area is titled '章の理解度テスト' and shows the evaluation method '評定方法: 最高評点'. A red box highlights the '問題を受験する' button. Below this, there are navigation links for '講義資料' and '講義', and a 'ジャンプ...' dropdown menu. At the bottom, a dark footer bar contains the text: 'あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト) 場面別の支援技術 データ保持概要'.

8

理解度テストの開始

理解度テストの画面で「問題を受験する」をクリックします。

4-2. 理解度テストの操作



The screenshot shows a web browser window with the ATA logo and navigation menu. The page title is '単元5 場面別の支援技術'. Below the title, there is a breadcrumb trail: 'Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-3 就労場面での支援技術 / 章の理解度テスト'. The main content area displays a question: '視覚障害のある人の就労支援機器として適当でないものを1つ選べ'. The question is worth 1.00 points. The answer choices are: 1. 磁気ループ, 2. 拡大読書機, 3. 点字ディスプレイ. There are navigation buttons for '次のページ' and '講義資料'. At the bottom, there is a '小テストナビゲーション' section with buttons for '1', '2', and '3', and a 'テスト終了...' button. A footer message states: 'あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト) 場面別の支援技術 データ保持概要'.

9

理解度テストの操作

理解度テストが開始され、問題と解答の選択肢が表示されます。



4-2. 理解度テストの操作

10

オプションボタンをクリックして回答します。

「私の選択をクリアする」をクリックすると、選択がクリアされ未回答の状態になります。

ページの移動

「次のページ」をクリックすると次の問題へ移り、「前のページ」をクリックすると前の問題へ戻ります。

小テストナビゲーション

回答状況が表示されます。回答済みの問題はグレーになります。

問題番号をクリックすると、その番号の問題ページに移ります。

「テスト終了」をクリックすると、テストの途中であってもテスト終了画面に移ります。

問題にフラグを付ける

クリックすると、小テストナビゲーションに赤いマークが付きます。



4-2. 理解度テストの操作

■ ページ移動

前のページへ移動

← 講義資料

ジャンプ ...

- アナウンスメント
- 著者の挨拶
- 著者の挨拶
- 講義
- 講義資料
- 講義
- 講義資料
- 章の理解度テスト
- 講義
- 講義資料
- 章の理解度テスト
- 講義振り返り
- 参考文献
- 単元の理解度テスト
- 単元5 場面別の支援技術を終えて
- 単元5 場面別の支援技術を終えて

後ろのページへ移動

講義 →

← 講義資料

ジャンプ ...

講義 →

11

ページの移動

前、あるいは後ろのページをクリックするか、プルダウンでジャンプ先のページを選択します。

テストの途中でページ移動した場合、テストは中断されます。



4-2. 理解度テストの操作

The screenshot shows a web browser interface for a test. The page title is '單元5 場面別の支援技術' (Unit 5: Support Techniques by Scenario). The breadcrumb trail is 'Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-3 就労場面での支援技術 / 章の理解度テスト'. The test question is '問題 3 未解答 最大得点 1.00 問題をフラグを付ける'. The question text is '肢体不自由者のための支援機器としてキーガードがあるが、正しく使い方を説明している物を1つ選べ' (For support equipment for people with physical disabilities, there is a key guard, but choose one that correctly explains how to use it). The options are: '1. 手の震えなどがある人のために間違えて隣のキーを押さないようにしたカバー' (Cover to prevent accidentally pressing the wrong key for people with hand tremors), '2. パソコンを間違えて操作しないように付けた鍵' (Key to prevent incorrect operation of the PC), and '3. キーボードが汚れないようにしたカバー' (Cover to prevent keyboard from getting dirty). Option 3 is selected. A '私の選択をクリアする' (Clear my selection) link is below the options. A '前のページ' (Previous page) button is on the left, and a 'テスト終了...' (Test ended...) button is on the right, highlighted with a red box. Below the question is a '小テストナビゲーション' (Mini-test navigation) section with buttons for '1', '2', and '3'. The '3' button is highlighted. Below the navigation is 'テスト終了...' (Test ended...). At the bottom, there is a footer: 'あなたは サンプル受講者としてログインしています (ログアウト) 場面別の支援技術 データ保持概要'.

12

最後の問題で「テスト終了」をクリックすると、テスト終了画面に移ります。

4-2. 理解度テストの操作



The screenshot displays the ATA test interface. At the top, the breadcrumb navigation reads: Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-3 就労場面での支援技術 / 章の理解度テスト / 受験概要. Below this is a table titled '章の理解度テスト 受験概要' with columns for '問題' (Question) and 'ステータス' (Status). The table lists three questions, all with the status '解答保存済み' (Answer saved). A red box highlights the 'すべてを送信して終了する' (Submit all and finish) button. A green arrow points from this button to a '確認' (Confirmation) dialog box. The dialog box contains the text: '送信した場合、あなたは今回の受験の解答をこれ以上変更することはできません。' (If you submit, you cannot change your answers for this exam anymore.) and two buttons: 'すべてを送信して終了する' (Submit all and finish) and 'キャンセル' (Cancel). At the bottom of the page, a footer indicates the user is logged in as 'サンプル 受講者' (Sample Student).

13

「受験に戻る」をクリックすると、直前の問題ページに戻ります。

終了して良ければ「すべてを送信して終了する」をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

確認メッセージで「すべてを送信して終了する」をクリックすると、テストが終了します。



4-3. テストの結果

単元5 場面別の支援技術

2020年03月11日(木曜日) 15:46

問題数 7
正答数 03 (11.4%)
得点 33 / 100
平均 1.00 / 14.29
評点 3.33 / 10.00 (33%)

問題1
1. 正解
1.00 / 1.00
1. 問題の状況
2. 問題の状況

問題2
1. 正解
1.00 / 1.00
1. 問題の状況
2. 問題の状況

問題3
1. 正解
1.00 / 1.00
1. 問題の状況
2. 問題の状況

全レビューの表示画面です。
一度に1ページのみを表示する

14

テストの結果

全レビューの表示画面です。

「一度に1ページのみを表示する」をクリックすると、問題ごとのレビューが表示されます。



4-4. テスト結果

ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修 日本語 (j0) サンプル受講者

単元5 場面別の支援技術
Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-3 就労場面での支援技術 / 章の理解度テスト

開始日時	2020年 03月 11日(水曜日) 15:45
状態	終了
完了日時	2020年 03月 11日(水曜日) 15:46
所要時間	33分
得点	1.00 / 3.00
評点	3.33 / 10.00 (33%)

問題1
正解 1.00 / 1.00
問題にフラグを付ける

視覚障害のある人の読字支援機器として適当でないものを1つ選べ
1つ選択してください

- 点字ディスプレイ
- 磁気ループ
磁気ループは視覚障害のある人のための補助支援システムとなる。(スライド番号: 16)
- 拡大読字機

あなたの答えは正解です。
正解: 磁気ループ

次ページへ

→ 講義資料 ジャンプ

小テストナビゲーション
すべての問題を1ページに表示する
レビューを終了する

あなたは サンプル受講者 としてログインしています (ログアウト)
場面別の支援技術
メニュー

15

各問題のレビュー画面です。

「小テストナビゲーション」に正解は緑、間違いは赤で問題番号が表示されます。

問題番号をクリックすると、その番号の問題に移ります。

「レビューを終了する」をクリックすると、テスト履歴画面に移ります

。

4-5. テスト履歴



ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修 日本語 (ja) サンプル受講者

単元5 場面別の支援技術
Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-3 就労場面での支援技術 / 章の理解度テスト

章の理解度テスト
評定方法: 最高評点

あなたの前回の受験概要

受験	状態	得点 / 3.00	評点 / 10.00	レビュー
1	終了 送信日時 2020年 03月 11日(水曜日) 15:42	3.00	10.00	レビュー
2	終了 送信日時 2020年 03月 11日(水曜日) 15:46	1.00	3.33	レビュー

最高評点: 10.00 / 10.00

もう一度受験する

← 講義資料 ジャンプ ... 講義 →

あなたは サンプル受講者 としてログインしています (ログアウト)
場面別の支援技術
テーマ保持概要

16

テスト履歴

受験したテストの履歴が表示されます。

章の理解度テストの評点が10.00点だと単元の理解度テストを受験できます。

単元の理解度テストの評点が8.00点以上でないと単元を終了できません。

評点が満たない場合は、もう一度理解度テストを受験して下さい。

「もう一度受験する」をクリックすると、同じ理解度テストを受験することができます。

4-6. テストの再開



ATA アシスティブテクノロジー・アドバイザー育成研修 日本語 (ja) サンプル 受講者

単元5 場面別の支援技術

Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 5-2 学習場面での支援技術 / 章の理解度テスト

章の理解度テスト

評定方法: 最高評点

あなたの前回の受験概要

受験	状態	レビュー
1	進行中	

前回の受験を続ける

→ 講義資料 ジャンプ ... 講義 →

あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト)
場面別の支援技術
データ保持概要

17

テストの再開

テストを終了せず中断した場合、テストの履歴画面で「前回の受験を続ける」をクリックすると、テストが再開されます。

4-7. 評価



The screenshot shows the ATA course interface. The main content area is titled '序 概要' (序 概要) and lists the course structure: アナウンスメント, 0-1 監修者挨拶, 0-2 本研修について, 0-3 障害者就労支援の現場から, 0-3-1 委員 (田代), 0-3-2 委員 (小野), 0-3-3 委員 (島田). The left sidebar contains a navigation menu with '概要' (概要) selected and '評価' (評価) highlighted with a red box. The right sidebar shows user options like 'ダッシュボード', 'プロフィール', '評価' (highlighted with a red box), 'メッセージ', 'アプリファレンス', and 'ログアウト'.

18

評価

「評価」をクリックすると、評価ページに移ります。



4-7. 評定

■ 概要レポート

単元3 ICT支援技術: 表示: 概要レポート

Home / マイコース / ICT支援技術 / 評定 / 概要レポート

概要レポート - サンプル 受講者

概要レポート | ユーザレポート

コース名	評点
序 概要	-
單元1 障害の理解	-
單元2 技術の理解	-
單元3 ICT支援技術	3.33
單元4 困難別の支援技術	-
單元5 場面別の支援技術	10.00
対面研修	-
実習	-
総括	-

あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト)
ICT支援技術
データ保持概要

19

概要レポート

概要レポートでは、コース一覧とそれぞれの評点が表示されます。



4-7. 評定

■ ユーザーレポート

評定項目	計算済み加重	評定	範囲	パーセンテージ	フィードバック	コース合計への寄与
■ 単元5 場面別の支援技術						
章の理解度テスト (空白)	0.00 %	-	0-3	-		0.00 %
章の理解度テスト (空白)	0.00 %	-	0-5	-		0.00 %
章の理解度テスト	100.00 %	3.00	0-3	100.00 %		100.00 %
章の理解度テスト (空白)	0.00 %	-	0-3	-		0.00 %
◇ コース合計	-	3.00	0-3	100.00 %		-

あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト)

場面別の支援技術
2-2-2 第2講義

20

ユーザーレポート

ユーザーレポートでは、コースごとに理解度テストの詳細が表示されます。

以上です。

序 第4章4



ATアドバイザー育成研修について
対面研修について

事務局

この講義は、ATA研修 序 第4章 4節「ATアドバイザー育成研修について 対面研修について」です。

この章のねらい



- **ねらい**
対面研修の位置づけと意味を理解する

- **目標・ゴール**
 - ・対面研修を通じて支援技術を体験的に学ぶことの重要性を理解する

 - ・学習者が直接会することで意見を交わし、障害者支援についての意識を共有する

2

この章のねらいは、
対面研修の位置付けと意味を理解すること、
です。

学習の目標は、
対面研修を通じて支援技術を体験的に学ぶことの重要性を理解すること、
学習者が直接会して意見を交わし、障害者支援についての意識を共有すること、
です。

目次



1. はじめに
2. まとめ

目次

1. はじめに



1. はじめに

■ 学習目標

以下、2つを重点的に学ぶ

▶ 障害体験

学習のゴール：実際のいくつかの困難を自分の身体で体験し、さまざまな場面での障害のある人の不自由さを理解する

▶ 支援機器のコーディネート実習

学習のゴール：困難別に開発された専用の支援技術製品や、同様にその困難を軽減・解消する一般製品を実際に操作して、その適合方法を体験する

4

学習目標は、
障害の体験と、支援機器のコーディネートの実習を重点的に学ぶこと
、
です。

1. 障害体験 の学習のゴールは、
実際のいくつかの困難を自分の身体で体験し、さまざまな場面での障害のある人の不自由さを理解すること、
です。

2. 支援機器のコーディネート実習 の学習のゴールは、
困難別に開発された専用の支援技術製品や、困難を軽減・解消する一般製品を実際に操作して、その適合方法を体験すること、
です。

目次



1. はじめに
2. まとめ

目次

2. まとめ

2. 学習のまとめ



- 支援技術は体験を通じて学ぶことが不可欠であり、対面研修はそれを実践する場
- オンラインで学ぶだけでは得られない「思い」を共有する場

6

まとめは、

支援技術は体験を通じて学ぶ事が不可欠であり、対面研修はそれを実践する場であること、

対面研修は、オンラインで学ぶだけでは得られない「思い」を共有する場であること、

の2点です。

以上です。

序 第4章5



ATアドバイザーの意義と役割 実習について

事務局

この講義は、ATA研修 序 第4章 5節「ATアドバイザーの意義と役割
実習について」です。

この章のねらい



■ 実習の位置付けと意味を理解する

■ 学習目標

実習を通じて最新の支援技術の動向を把握する

直接各種の支援機器に触れる事で、支援技術の実際を理解する

直接障害支援に携わる方の経験談を聴くことで知見を得る

2

この章では、実習の位置付けと意味を理解します。

学習目標は、

実習を通じて最新の支援技術の動向を把握すること、

各種の支援機器に直接触れることで、支援技術の実際を理解すること

、

障害支援に携わる方の経験談を直接聴くことで知見を得ること、

です。

学習のまとめ



- どのような支援機器が存在しているかを知ること、よりよい障害者支援が実現する
- 障害者の支援に携わる方の経験を通じて自らの活動を向上させる

3

学習のまとめです。

どのような支援機器が存在しているかを知ること、より良い障害者支援が実現します。

障害者の支援に携わる方の経験を通じて自らの活動を向上させましょう。

以上です。

序 第4章6



ATアドバイザー育成研修について
オンラインディスカッションについて

事務局

この講義は、ATA研修 序 第4章 6節「ATアドバイザー育成研修について
オンラインディスカッションについて」です。

目次



1. はじめに
2. オンラインディスカッションの意義
3. オンラインディスカッションの使い方
4. 学習のまとめ

目次

1. はじめに

1. はじめに



- オンラインディスカッションの意義を理解する
- オンラインディスカッションの使い方を学ぶ
- 学習目標
オンラインディスカッションを使った学習を進めることができるようになる

3

この章のねらいは、
オンラインディスカッションの意義を理解すること、
オンラインディスカッションの使い方を学ぶこと、
です。

学習目標は、
オンラインディスカッションを使った学習を進めることができるようになること、
です。

目次



1. はじめに
2. オンラインディスカッションの意義
3. オンラインディスカッションの使い方
4. 学習のまとめ

目次

2. オンラインディスカッションの意義

2. オンラインディスカッションの意義



- 学習した内容を他の学習者と論議することで学びを深める
- 多様な背景を持った学習者との意見交換を通して障害支援の視点を理解する
- ファシリテーターとの意見交換を通じて最新の支援技術について理解を深める

5

オンラインディスカッションの意義は、
学習した内容を他の学習者と論議することで学びを深めること、
多様な背景を持った学習者との意見交換を通して障害支援の視点を理解
すること、
ファシリテーターとの意見交換を通じて最新の支援技術について理解を
深めること、
です。

2. オンラインディスカッションの意義



■ 議論の方法

あらかじめ設定されたディスカッションテーマに対して、設定された議題に沿って議論を進める

当該単元の担当者がファシリテーターとしてコミュニティに参加する

■ 受講日時

受講できる期限が指定されるその期間内に受講する

6

議論の方法について説明します。

あらかじめ設定されたディスカッションテーマに対して、設定された議題に沿って議論を進めます。

当該単元の担当者がファシリテーターとしてコミュニティに参加します。

受講日時について、受講できる期限が指定されるので、その期限内に受講します。

2. オンラインディスカッションの意義



■ 評価方法

以下の点を評価する

- ・ ディスカッションへの参加の度合い（発言数、発言内容）
- ・ 関与が少ない学習者には事務局からメールが届く

7

評価方法です。

ディスカッションへの参加の度合い(発言数、発言内容)を評価します。

関与が少ない学習者には事務局からメールが届きます。

目次



1. はじめに
2. オンラインディスカッションの意義
3. オンラインディスカッションの使い方
4. 学習のまとめ

目次

3. オンラインディスカッションの使い方

3. オンラインディスカッションの使い方



The screenshot shows a web interface for an online discussion forum. The page title is '単元5 場面別の支援技術' (Unit 5: Support Techniques for Different Scenarios). The breadcrumb trail is 'Home / マイコース / 場面別の支援技術 / 単元5 オンラインディスカッション / 単元5 場面別の支援技術を終えて'. A search bar is visible with the text 'フォーラムを検索する'. The main heading is '単元5 場面別の支援技術を終えて'. Below this, there is a paragraph of text: '単元5を終えて身の回りの生活で障害を抱えた場合、どのような困難があると思いませんか？ここでは皆さんが想像した困難についてお話してみてください。' There is a blue button that says '新しいディスカッショントピックを追加する'. Below that is a table of discussion topics. The first row is highlighted with a red box and contains the text '☆ 単元5を終えてみて'. The table has columns for 'ディスカッション開始', 'ディスカッション開始', '最新の投稿', and '返信 購読 する'. The first row shows 'システム 管...' and 'システム 管...' with dates '2020年 03月 4日' and '2020年 03月 4日'. At the bottom of the page, there is a footer that says 'あなたは サンプル 受講者 としてログインしています (ログアウト) 場面別の支援技術 データ保持概要'.

9

オンラインディスカッション

全単元を終了するとオンラインディスカッションに参加できます。

3. オンラインディスカッションの使い方



■ 返信を古いものからフラット表示

単元5 場面別の支援技術を終えて
単元5を終えてみて

返信を古いものからフラット表示する

単元5を終えてみて
2020年 03月 4日(水曜日) 20:36 - システム 管理者 の投稿

私がこの単元を受講して考えた事は…
…
…

パーマリンク 返信

Re: 単元5を終えてみて
2020年 03月 4日(水曜日) 20:37 - システム 管理者 の投稿

〇〇さん。
…についてですが自分は～と思いました。

パーマリンク 親投稿を表示する 返信

→ 単元の理解度テスト ジャンプ... 単元5 場面別の支援技術を終えて

10

トピックをクリックすると、トピックの詳細画面に移ります。
返信の表示方法を変更できます。
画面は返信を古いものからフラット表示した状態です。

3. オンラインディスカッションの使い方



■ 返信を新しいものからフラット表示

The screenshot shows a discussion thread titled "単元5 場面別の支援技術を終えて 単元5を終えてみて". At the top right, there is a "設定" (Settings) button. Below the title, a red box highlights a dropdown menu with the option "返信を新しいものからフラット表示する". The thread contains two posts from "システム 管理者". The first post is dated "2020年 03月 4日 (水曜日) 20:36" and contains the text "私がこの単元を受講して考えた事は...". The second post is dated "2020年 03月 4日 (水曜日) 20:37" and contains the text "〇〇さん、...についてですが自分は～と思いました。". At the bottom of the screenshot, there are navigation links: "→ 単元の理解度テスト", a "ジャンプ ..." dropdown, and "単元5 場面別の支援技術を終えて →".

画面は返信を新しいものからフラット表示した状態です。

3. オンラインディスカッションの使い方



■ 返信をスレッド表示



12

画面は返信をスレッド表示した状態です。

3. オンラインディスカッションの使い方



■ 返信をネスト表示

単元5 場面別の支援技術を終えて
単元5を終えてみて

返信をネスト表示する

単元5を終えてみて
2020年 03月 4日(水曜日) 20:36 - システム 管理者 の投稿

私がこの単元を受講して考えた事は…
…
…

単元5を終えてみて
2020年 03月 4日(水曜日) 20:37 - システム 管理者 の投稿

〇〇さん、
…についてですが自分は～と思いました。

単元の理解度テスト

ジャンプ ...

単元5 場面別の支援技術を終えて

13

画面は返信をネスト表示した状態です。

3. オンラインディスカッションの使い方



■ 投稿に返信

単元5 場面別の支援技術を終えて
単元5を終えてみて

返信をネット表示する

単元5を終えてみて
2020年 03月 4日(水曜日) 20:36 - システム 管理者 の投稿

私がこの単元を受講して考えた事は…
…
…

あ

パーマリンク 返信

あなたの返信を記述する …

返信 キャンセル 高度

14

投稿に対して返信することができます。

「返信」をクリックすると、返信の入力欄が表示されます。

「高度」をクリックすると、高度な入力欄が表示されます。

3. オンラインディスカッションの使い方



■ トピックの新規作成

単元5 場面別の支援技術を終えて

単元5を終えて身の回りの生活で障害を抱えた場合、どのような困難がありましたか？
ここでは皆さんが想像した困難についてお話してみてください。

新しいディスカッショントピックを追加する

件名

メッセージ

フォーラムに投稿する キャンセル 削除

マークが付けられたフィールドは必須入力フィールドです。

ディスカッション ↓	ディスカッション開始	最新の投稿	返信 購読する
☆ 単元5を終えてみて	システム 管... 2020年 03月 4日	システム 管... 2020年 03月 4日	1 1

15

「新しいディスカッショントピックを追加する」をクリックすると、新しいトピックの入力欄が表示されます。

目次



1. はじめに
2. オンラインディスカッションの意義
3. オンラインディスカッションの使い方
4. 学習のまとめ

目次

4. 学習のまとめ

4. 学習のまとめ



- オンラインディスカッションの意義を理解して学習することができる
- オンラインディスカッションを通して実践的に学ぶことができる

18

学習のまとめです。

オンラインディスカッションの意義を理解して学習できること、
オンラインディスカッションを通して実践的に学べるようになること、
です。

以上です。